物産雑説

水獣類
爬蟲類

亀鼈、鯢魚
水蛇

三十

A 00
5764

東京大学総合図書館

三十

No. 81

ラッコ　海獺

此獣ハ大平海ノ北部北アメリカ及カムサツカノ海邊
ニ産ス其毛皮甚タ美麗ナリ
此獣ノ成長セルモノハ大サハ大ナル守犬（ホドアリ）目方ハ
三十五斤ヨリ四十斤ニ至ル其毛皮ハ柔ニシテ光アル暗黒色ナリ
全体ノ様子ハ海狗ニ似テ後脚扁平ニシテ游泳ニ便
アリ常ニ海邊ニ棲メ又鹹水ノ直ニ接セル
地ニ居ル颶風アリノ海荒ノ時ハ海藻ノ間ニ身ヲ
隠ス此海藻ハ海中各処ニ繁リ集メテ之ニ棲居
セリ其食餌ハ一様ナラス下係多クハ烏賊（イカ）蝦

博覧会事務局

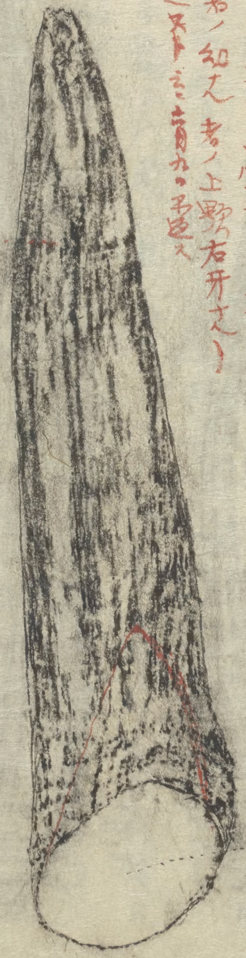
Aoa 5764
東京帝國大學圖書印
B 45224
東京大学総合図書館

又魚獸ナリ」又獸」好ンテ其魚ヲ持ツ片時ニ知リ

鹿児島縣下大島宇検村晴喜納所有ノ品ニ付水産博覧會ヘ出品セントスル其物タル牙カ角カ不明ナレバ唯海馬ノ角ト云ヒ傳フルモノナレバ出品ハセザレドモ尚精研シタシトテ質問セラル

鹿児島縣九等属 小山恒之

是ハ海馬（アシカ）ノ牙ニ非ズ海馬（セイウチ）ノ内大牙ニ度ハル者ノ如クナル者ノ上顎ノ右牙ナルベシ
ニ其空ヲ切ト云ニ青ナルノ品ナル



松原氏曰 是ハ切牙ヲ共ニ近ク肉中ニ入タルナリ 但ノ従ガツキ氏云ヘリ

白質堅実外面ニ茶色ノ汚レアリ 縦細理アリ 又膿環アリ 其数大二ナリ
而シテ稍外部ヘ曲ル 根部ハ内空 暗褐 深サ五寸許マデアレド 先ハ細ルナリ
長六寸 本ノ幅一寸余 厚サ六分半 重量 二十五匁五分

琉球ヨリ来ル 海馬皮トイフモノアリ 厚サ五分許ノ半透明
ニテ膏味ノ香アリ 皮ヲ乾シタルモノ也 外面暗黒ニテ或ハ少ク毛アリ
大サハ適宜ノ形ニ切乾シタルノミニテ定マラズ 其未洗地ヲ削リテ
素ニ用ユトテ聞タルノミニテ 如何ノ用アルヤ 知ラザリシ
十七年三月ノ頃 同所田ノ手持スルヲ見シニ 只ハ神經ニ効アルトイフ
生ナ島ノ八重山島ニ産スルモノニテ 稀ニ見ル少ナレナリ 乾シ乾枯ス
琉球人ハ削リテ煮汁ニ入レ食スル也 海業ヲ食スル人ノ如キ 当地ニテ
琉球ニテハ常ニ蓄ヘ置クモノナリト 其効ハ 生年法人ノ保スモノヲ
保ニアリトイヘリ 二十五日ハ即チ海馬ノ図ナリ 始テ海馬ノ皮ニシテ
海馬ニハアラズ 又 此年貝包 幼牙ハ即チ此類ノ牙也
赤知人ヨリ得タルハ 大事ナリトイフ
十七年三月八日 不取敢 今日ノ了解ス 田井

側面

外面

末ハ尖ラズシテ如此四五寸アル 精粗アルニ 今ノ尖頭ノ缺ケタル跡ナリ

明治十六年四月廿三日
田中芳男記

(村松白天定保 図取添)

右ハ陳兵呂ガ年
付平凌詩集
老兵變海島ハ字、
琉球西海ニ在レ
ソノ以テ離平矛ハ愈
琉歐ノ牙ナラント思フ者

[illegible]

けだし海馬ハ大西洋
海馬及ビ大平洋
海馬ノ別アリテ大平
洋海馬Rosmarus
Cookiiハ大平洋ノ
北部ア亜細亜米
間ニ産スルモノニシテ洋ニ
同モ海象多ク大西洋
海馬ハRosmarus
obesusハ北大西洋ニ
産スト云ヘ然未海獣誌ニ
記載ナクシテ由是観
之ハ古シ今ハ大平

洋海馬ノ牙歯ニ付

[illegible]

田中先生

[illegible]拝

拝啓陳ハ今六月七日貴下ノ歯ヲ再ビキュビエ氏及ビハックスレイ氏等ノ骨學書ニ付テ参考仕候處壺魚ノ如キ有歯鯨ニ属スルモノニハ無之儒艮若クハ海馬ノ右上顎ニ御座候然ルニ儒艮ノ牙歯ハ其形状之ニ異ナルノミナラズ該獣ハ日本沼岸ニ見ザル所ノ尚ホ熱帯ニ産スベキ動物ナルガ故ニ海馬ノ歯ト愚考仕候例ノ幼歯ニ見ル所ノ三縦溝ハキュビエ氏ノ圖中ニモ亦有之申候

拝具

ゴッチエ

追加

琉球海馬ノ説　琉球方言ケーバ

琉球人常ニ客ノ饗膳中海馬肉ノ乾製物ヲカンナニテケヅリ鰹節ヲカクガ如クニス吸物トス余カ始メテ食セシハ明治八年四月飯田町琉球藩邸津波古親方ヲ訪ヒシ時ナリ其色白色其味淡薄ニシテポツ〳〵スルヿシラゲニ似タリ其後明治八年六月琉球藩ニ在勤モ居ルヿ二ヶ年在琉中海馬ノ吸物ヲ食スルヿ数度依テ該乾製物ヲ購ヒ米国博覧会ニ出品シ又之ヲ博物館ニ送リ余モ亦之ヲ自用スルニ來客必ラズ珍好セザルハナシ○此海馬ハ琉球諸島中宮古八重山両先島（宮古ニハ甚稀ナリト共八重山ニハ尤多シトス）宮古島ハ沖縄島那覇ヨリ九十三里、八重山島トハ石垣入表等ナルアナリ石垣近那覇ヨリ二百四十里當ニ至リ赤道ヲ離ルヽ二十四度ノ処ニアリ

Lieber Herr Collega!

Ich habe heute (7 Juni) Ihren Zahn noch einmal mit der Osteologie von Cuvier (Ossemens fossiles), u. Huxley-Flower verglichen. Zahnwale, wie Pottfisch sind ausgeschlossen; entweder ist es ein rechter Oberkiefer eckzahn vom Dugong (Halicore) oder ein solcher von Trichechus. Ich glaube das Letztere, da die Hauer des Dugong eine andere Gestalt haben. Zudem ist der Dugong ein Thier, welches ich an der Küste Japans nicht erwarte, es ist mehr tropisch. Auch zeigen Walrosszähne auf den Abbildungen bei Cuvier jene Längsfurchen, welche auf Ihrem jungen Zahn in der Zahl von drei angedeutet sind.

Mit bestem Gruss

Ihr C. Gottsche

ノ海中ニ生息スル海獣ナリ然レトモ余未タ八重山ニ至ラズ宮古ニ渡島セシ時ハ此モノヲ捕獲セシモノナク故ニ乾肉ノミニシテ全体ノモノヲ見ザルヲ遺憾トス然ルニ在勤中明治八年十二月廿六日写生図ヲ見タレハ之ヲ紀行中ニ模写シ置タル図ハ左ノ如シ ○先島ニ於テ此モノヲ捕獲スルハ十月ヨリ翌三月頃迄ニシテ鳥銃炮ナスラウチトル一ケ年得ル所凡三四十頭ヲ年々琉球藩王ニ貢物トナスモノ十頭（皆乾肉ナリ）價ハ明治八年頃一斤十五銭位ナリシナリ

明治十七年三月十二日　河原田盛美識

○乾製法ハ佗モナク燒キ（火ニ炙リ）程能切リ糸ヲ通シ乾燥ストイフ

紙儀板

琉球八重山島ノ産海馬ノ図

同藩人備瀬（ビセ）筑登之親雲上（チクドンペイキン）ヨリ余ニ送リシ図ナリ

明治八年十二月十六日　河原田盛美

備瀬筑登之親雲上ハ那覇ノ人宮古八重山ニ在勤セシ度々ナリ

海馬皮附考

琉球ヨリ来ル海馬皮ト云モノハ原ナ皮ノ切片ニテ長サ七八寸幅三寸許アリ白質ニテ透明ニシテ外面瑇瑁色ヲ帯ブ毛アリ堅硬ニテ腐敗セズ又虫蠹ノ患モ少若ハ是ニ用ヘ由聞クノミニテ其詳ヲ得ザリシ又海馬トハ云ヘバ世間ニ海馬ト称ス アレカノ皮ハ黒シ 原来海馬ノ字ヲ叢鰓科ニ属スル小魚タツノヲトシゴニ充テ又セイウチニモ称ス アレカニ充ルハ俗字ナルガ如シ 右ノ原皮ハアレカニ非ベク知ル未タ何獣ノ皮ナルヲ知ラザリシガ幸ニ所原田氏ノ説ニヨリ始テセイウチナルコトヲ知ル

時十六年水産博覧会ノ序 庶事係委員 小山恒忠氏 小十冊

一本ノ持来日出シ博覧会ニ出品ニトテ大坂ノ人ヨリ出セシカ（海馬ナリト云ヒ）
何物ノ角ナルヲ知ラザリシハ出品ナリシモ疑フハ何物ナルヤト尋ネシモ知ラズ
因テ松原高松氏等ニ示セシ 太平洋産 海馬ノ角（セイウチ）ナリト書（大マカ）
知ル 今河原田氏ノ返ニ云 海馬トナス（ナスノ説無稽定）而シテ此ノ角ハ海馬ナリト云フ
ハ勿論 既ニ同物ナリ [illegible]

十二年三月十一日 眼ノ為ニ之ヲ識 田中芳男

紙 職 技

箱館日本橋本町 野口栄吉方ニテ見シ也ノ如キ
海獣アリシト云フ 河原田氏ノ依テ上御覧早速
同人方ニ来テ聞ク所ノ其獣モサ頭ヨリ尾末迄
凡弐尺三寸程ニシテ皇国ニテハ見ルコト稀ナリ
此獣ノ尾ハ後脚左右ノ間ニ接シテアリ 其サハ凡三寸程
此尾ノ根ノ骨肉中ニ三寸余毛アリ 根ニアリテ中ニ在
又背通リノ毛色ハ鼠色ノ胡麻マダラニテ全ク海驢
児ト見ヘ申候 尤保存長サ左ニ書品ト比較スルニ
別合ニ彼ノ毛ハ根ニ存シテ他ニ異ナル所アリ
此皮ハ唯壱疋アリテ他ニ無之申候
代價ハ金五円ト先年申来候 壱円位ハ下ケ可申
トノ事ニ御座候 於是他ニナレバ同人ヘ申遣シ候

其余モ何程ニ[illegible]
就テハ古代價金四円ト見做シ右價ノモノト
御處置 重復ニモ相成候ハヾ先見合セ可申
候間右ノ中ニテ撰ビ[illegible]
標品ニハ右ノ品[illegible]
頓首
十年 二月十五日 夜[illegible] 田中房種
田中芳男様

本月四日開拓判官西村貞陽ヨリ北海道産膃肭獸
ノ生活セルヲ當局ヘ出品セリ長サ頭ヨリ尾際迄二尺
餘頭円ニシテ眼大ク耳ト尾トハ甚小ナリ手鰭ソモ脚鰭ハ
海驢ニ比スレバ頗ル大ナリ其游泳膜ハ皆爪ヲ超エ頭部ハ
褐色ニシテ背部ハ灰黄色ニ褐色ノ雜斑アリ腹部ハ灰色ニ微
黄ヲ帯フ其行ニハ手鰭ヲ左右ニ開キテ匍匐ス鰮魚鯡魚等ヲ
食フ此海獸從来有名ナレ氏其生活セル者ノ來ルハ蓋シ今
般ヲ以テ初トス

（傍記）両ニ分　全体ノ毛　游スル　褐色ニシテ毛ナリ

尤モコノヒゲハ筆意ニハ動カノ毛カ
言此ノモノナルト云フヲ示スニ過ギ
しら紀ハ読終ると 一 載せ
始ドレおし
ある御し コノ合ノ字ハ 三
州きて くし アリトモトドス モノ四ニ
秋まし 可く なのてし 字
ろの ぬし ドハ 無ハ 名告ト

東京大学総合図書館

ノウミえとよし 又コノヒゲ
ハ膃肭獣ノヒゲニ類し 抔ニ候
カ用ニ立チ可申ヤ 此段御案内申し
四足獣を殺して 此邊陳列所
備へもて然カ 重宝ニ存候て
りし 拝
杉多野
田中芳男様

ノ皂 臨御ノ君ニ一枚十四五円ナリトカ
濁守代田 鰍ヲ捕ラセハ スコツトランド産 ラーヌエンド
(Water Lanne) 最良之 是鰍ノ棲所ヲ嗅エヒテ
捕ヘトグ 又グレーキレンド ハ猟ニ適ス 脚長キモ小
キ垣抔ハ容易ク飛越ヘ行キ 兎猟抔ハ極テ妙ナリ
トラフ
十五年一月十六
田中芳男記

ノうちゑとよし 又コノヒゲ
ハ膃肭獣ノヒゲニ甚しく似たり

水獺

獣店ニ多シ 皮質柔軟ナリ 北海道ノ者ハ大サ二
倍セアリ 毛質海獺ニ近ク良好ナリ 一枚代金七八円
ノ由 魯國ノ者ハ一枚十四五円ナリトソ
英國ニテ獺ヲ捕ヘセルハ スコットランド 産ラーメエンド
(Water Louse) 最良ニ 是獺ノ棲所ヲ嗅エミテ
捕ヘトブ 又グレーキーレドハ 獺ニ適ス 脚長キユヘニ 小
キ垣抔ハ容易ニ飛越ヘ行キ 息猟抔ハ極テ好ヘナリ
トラフ

十五年一月十六
田中芳男記

附

毛皮ハ寒国ホド緻密柔軟ナルハ人ノ知ル所ニシテ北海
道産ノ毛皮内地ト同品ニシテモ其毛織ハ甚ダ良好ナリ
熊ノ如キモ内地ノ者ニ比スレバ其毛ノ軟カナルニ至テ大ニ異ナリ
又犬ノ毛柔軟細密ナレバ敷物トシテ良好ナリト其外
狐ノ品数ニ至リテハ白アリ黒アリ斑アリ皆内地産ノ
比ヲ許サヾルナリ

鯨ノ産物　志手博覧会

徳島県　鯨歯ハ鯨髭ニシテ黒ト白ト二品アリ短シ
三重県　鯨骨附海代不勘
山口県　鯨耳石二ツ　一ハ擲録　一ハ長寿鯨
長崎県　鯨膂骨　カブラ骨ノ細ニ裂キ製セシ人ヌノナラン
直[illegible]健回北海道チヒト云フ鯨アリ其油黒ク毛デニ云ヒギリ如キ者
明義庫大質ナリ肉ハ食スベカラズ　鮭止マラヌ由　明年三足捕ハ脊
骨小シ長三間位ナリ

本旨実見ノコヲ小野氏ニ
話ス君ハ先ニ此店ヲ
鍍作ヘヲ見テ白馬子
ヲ遺セ換セトニ到ニ異ル
所ナキヲ報セラトアリ
テ遂ニ降ノ吟味スルコト
ナカリシ田ナリ今ニテ於ハ
絕令平常ノ鯨ノ尾骨全
備ノ骨中各部一個家
畢ヘハ嵜撲範トナスベキ
モノナリト跡ヲ後悔

真甲鯨ノ骨

明治十五年一月十日朝出勤ノ途湯島天神町下ヲ過ク鍍工ノ店ニ異物アリ就テ見ルニ鯨骨ナリ皆鍍製ニテ茶盆菓子器様ノ者又ハ花瓶根付烟筒等ヲ作レリ而テ多クハ煎餅骨ナリ男ヲ何ナルヤヲ問フ答曰津軽ノ海ヨリ揚ル真甲ト云フ鯨敵ノ骨ナリ澤山来レトモ今ハ残リ尤ト思テ二個ノ鍍作セシ者ヲ求メ全備ノ者ナルヤヲ探リ一個ヲ得タリ外ニ椎骨一個ヲ蔵ス之ヲ烟草盆ニ作ラシトスト云フ今其製スル所ヲ見ルニ骨質ハ海綿状ノ細孔ニシテ更ニ尋常ノ骨様ナラズ日ニ映シテ絹ノ如シ因テ革スルニ此骨ヲ健テ炭トシ水落ニ用ヒ又糖漿ノ

椎
以
雄　コノ尾ハ広行ス
鰭ハ背ニアル骨ノ如ク其用ヲ行ナシ
ナ竹鞭ノ紐付ノモノ突出シタリトモ云フヘシ 是ハ長三尺二寸許 囲五寸
二尺許ナリ 其的ニ 褐黒色ノ滑沢ナル皮アリ 是ヲ剥キ去レハ鰐
灰黒色トナル 其ハ下顎ヲ挺出スル部ニ四枚アリ 其一ニ此鯨ノ鯨鬚ト
見ヘテ其写生ハ擬蔵ニテ鉋田形ナセ 此鯨ノ半年五四月ノ捕獲
ナリトセラン
明日六八夕水産会社ニ於テ蝦夷ノ書ノ見ヘ 原本成録ノ書ニ

分離ニ用ヒシ一ハ器械的ノ作用ヲナシ一ハ化学的ノ作用ヲナサ
シ組合一枚ニシテ効ヲナサス数枚ヲ重子テ効アルコト従来
鯨骨ヲ斯ニ用ヒシコトヲ知ラス 唯十年博覧会ノ節開拓使
ヨリ鯨骨ヲ薄ク切リタルヲ張リタル机臺等ノ出品アルヲ見タリシ
唯奇観ナリトスル迄ニテ別ニ用ニハ立チカタシ 今共ニ水泥等ニ
用ヒシハ此一個ノ特効アルニカ
鯨ノ骨ハ屡見ニ 鯨鬚骨ノ如キ状一厚カラスシテ手盆状ヲナス又椎骨
モ較異ナルヲ見ル 然レ氏余ハ未タ真甲鯨ノ骨ヲ見サレハ今回ノ
骨ハ真ノ真甲鯨ナルヤハ確定セス 唯普通ノ鯨骨ニ異ルヲ知ルノミ

十五年十一月十日夜　　田中芳男記

マルヤ

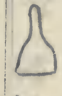
東京大学総合図書館

分離ニ用ヒシ一ハ器械的ノ作用ヲナシ一ハ化学的ノ作用ヲナサ
シ組合一枚ニシテ効アリヤ数枚ヲ重子シ堅ヌ効アルヤ経来
鯨骨ヲ[illegible]用ニシテヲ知ラズ唯十年博覧会ノ節開拓使
ヨリノ鯨骨ヲ簡ノ切タルヲ張タル机臺等ノ出品アルヲ見タリシ

鯨作ニ見ル骨ノ内質 甚タ細孔ナリ

槌鯨

明治二十三年八月安房ニ於テ 田村記

槌鯨（ツチ）ノ名ハ頭ノ形  槌ニ似タルニ名ヅク一ニ小鯨ト云フモ 因テ名ヲ涙ニ号ヒ
球セシト擬鯨（カジ）ト怪異 混シテ甚キ 捕鯨業者 槌鯨ノ牝ト擬鯨ノ雄トヲ区キ
雄雌ノ別ナシ 各雌雄同形ニシテ人田ナリ 其 安房鯨山ノ水産会社ハ
テ所獲ノ紀伊ノモノ 突西メタリト云フモノヲ 見ルニ長三丈二尺許 周囲
二丈八尺許ノ其背部ハ褐黒色滑沢ナレドモ腹部ハ剥ゲ易ク 如
灰黒色トス 歯ハ下顎ノ挺出セル部ニ四枚アリ 其ノ二ハ大鯨ノ如キ鯨ト
見ツテ其属者ハ窮蔵シテ鈍円形ナリ 此鯨ハ毎年五六月ノ捕獲
ナリトス
明治廿八年ハ水産会社ニテ捕ラヘタル 鯨ノ見ル所年々鯨ノ[illegible]

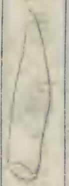
東京大学総合図書館

下野ニ四枚アレモ之レハ契録ハ磨シテ形ノ全キモノ無シ此頃ノ
モノハ平ハ磨シ損シ居リ一枚ハ飴色ナリシカ今此社ニ納ム
形全クシテ 如此 表面至テ滑ニテ長サ三寸ニ近ク厚
サ一寸モアリ 但シ是ハ前ニ記セシ奥ノ二枚ニ尚小ナル甑
ニテ多ク肉裏ニ隠シ大サ前ノ平ニ住セス 実際四分ノ一
住ナラン 如此

巨頭録

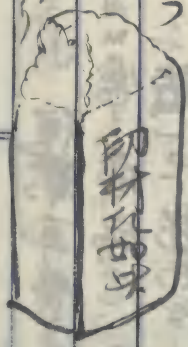
明治十二年八月十三日 館山湾ハ鴨付ケ水産会社ノ庭ニ上ケ在
ヲ見ル 長サ一丈許ナレハ鯨族ノ一方ニ垂テ骨無ク歯ニ皆鋸
リ切リ去リ鰭ハ又左鰭ノ一尺ハ切去リタリ 不得止不全ノモノヲ写
又大尾方ハ浅海ヨリ 長サ一丈五尺許ニシテ鰭ハ剝リ鰭
ヲキ又背鰭モ切去リタリ 是ヲモ写
此鯨リ此地テ ゴンドウ トヨフ 頭大ニシテ嘴ハ短ク 挺突セシ
テ 小歯列シ 鋭突ナリ 其歯ハ四十八枚アリトモフ 其種類ハ
海豚ニ近シト 然ニ大ナニ一丈余ニ至リ 海豚ノ此ニ非ス
従来此鯨ノ形状ヲ図スル者 不足事ナリシカ 是ヲ見テ写

ヲ知ルコヲ得タリ 外皮ハ黒色滑沢 塗漆ノ如シ
往日會社ニ於テ 甚異ノ物ヲミテ見 形ハトビノ嘴ノ如クニテ内ハ
空ノ長サ一寸許 圓筒状ナリ 所謂 蛸ノ如キ嘴ノ質 堅白ニテ
美ナリ



鯨耳骨ノ需用

水野廣運氏ノ九州地方捕鯨場巡廻ノ際渇ヲ乗
ヘテノ長須鯨ノ耳骨ヲ切リ印材ニ製シタルハ
恰モ水象牙ノ内部ノ色澤ニテ 彼ノ如ク細斑紋ハ
ナク 堅實ナルニ依 彫刻ヲ用ユベシ 其耳骨ハ両耳ノ
各處ニ一個ヅヽアリ 頭骨ノ内ニ挿入シ 故ニ取出ス
ハ容易ナラズ 初ハ 膀胱ニ包マレタルモノニテ且
頭骨ニ連絡シタル 下ニアリ 上ニアリ
其類ハ十三尋アリシヨシ 又左頭
鯨ノ耳骨アリ 長サ五寸ノ長サアリ



此材ニ就テハ飛砥ヲ用ヒ忽ク礫ハ改ニ青研住ヲ用ヒ又末秋ヲ用ヒ唐ニテハ他ノ玉エノ如胴板ノ上ニ薩摩ノ…アルニテ磨スル以テ磨ケテ光澤ヲ出スヘキナリトス

長須鯨ノ脊骨ハ高長ナル由 緑栗再骨ノ形ナル香炉ニシテ内ニ空所アリ 一方ハ厚ク廣クシテ他ハ薄アリ又骨ノ如クニ鯨影スルナリ 総テ尺 彫刻ノ用ニ供ニナルハ 水師等ノ柄トス

又曰 鯨骨ハ柱類ニ因テ疎密アレド 密質ナルハ皇骨 胸骨等ノ外部ニシテ 是モ内部ハ蜂窩ナリ 胴骨ハ全ク蜂窩状ヲナス 故ニ密質ノ部ヲ以テ 十六年水産博覧会ノ際 魚ヲ作リ出シタルアリ 象牙ノ材ニテ成ルベキモノナリ

明治十八年九月十五日 農商務省ニ於テ 田中芳男記

捕鯨書類ノ書入上ハ不用トス 廿年ノ冬 田井

此巻ハ丁[illegible]…図ニ…

鯨魚圖書

世ニ鯨図并捕鯨図等ノ書多シト雖モ 上木セルモノハ 勇魚取繪詞及ビ鯨肉調味法 其外ニ鯨志一冊ト 海鰌譚アルノミ 其他ハ鯨史稿アレモ刊行ニ至ラズ 繪巻物ノ種類ニ至リテハ 類似ノモノ多クシテ 大同小異 何レカ正 何レカ擬ナルヲ知ラズ 而シテ著者年月ノ不詳ナルモノ多シ 余カ所蔵スル所ノ巻物六幅アリ 假ニ之ヲ甲乙丙丁戊己トス 甲ハ 秋田玄泉著ス所 鯨鯢図 鯨鯢図并調ノ一附図 標図 鮭ノ図 合十六図アリ 漢文ノ解説アリ 乙ハ 諸魚之形トス名ニシテ 鯨魚 海豚 鱶 鮫 等 廿五図アリ 享保八年ノ

紀州熊野浦ニテ捕鯨ノ図アリ 全文ヲ折本トナシ西ノ紙ヲ巻ノ末ニ
之ヲ鯨図ニテ一枚 捕鯨図ノ小幅ヲ末ニ附ス
唯捕鯨図 [illegible]
如キヲ唯図ノ順序ヲ異ニスノミ 又 戊巳ノ二幅ハ皆太地ノ図ヲ附ス
ヲ乗 鯨体ノ意ハ 捕鯨ノ称ニ 肥前唐津 伎ニ斯 著ス 安永三年
生ト同称ニテ序数等ヲ異ニシ 井上主榜ノ 撰セシ 図ヲ 民ノ 蔵
目民ノ中ニ 無差ノ不足ノ 全備 捕鯨図
捕鯨ノ事ノ 鯨ノ修補 組細ニ見テ 又 紀底 鯨図 ノ世ニ 乙 寛政十年
ニ図之 異名ノ差アリ 然ニ乙ヲ見 但シ 初ニ 鯨漁 ノ図ヲ 又 差末
長崎ノ 霊岸 注エテ 文政 ノ 著所 挿ノ 鯨図 ノ 無所有
熊土 外ノ 無図ノ差 乙 手ト 但 図画ノ 粗 等 くく

紙 儀 板

鯨魚圖書

鯨魚ノ圖并捕鯨圖等ヲ載スル書ハ世上ニ数カラネト雖モ刊行セル
ハ勇魚取繪詞 五十九年 肥前平戸生月島御館ノ同述 文政十二年 二冊 同附録 鯨肉調味方 一冊 第二
鯨志 百二十年 ハ南紀 如水軒 撰 宝暦八年 俗ニ鯨取唐[illegible] 海鰌談 本年 木村厚著 寛政十年 以外 魚鑑 宇井布記
水族志 内ニ載ス 又 日本ニテハ 日東魚譜 積水海魚譜 等ニ見エ
ニ甚 大槻準 撰ノ 鯨史稿 六冊ハ最モ備ハル良書ナリ
此他ノ写本ニテハ 百十年余 肥前唐津 伎ニ斯 著ス 鯨記 二冊 山本西方 安永
同人著 百十五年 肥前唐津 鯨図 一幅 謀解 ハ 鯨捕獲ヨリ切開ノ順序
図ニ最モ精細ニ述ベタル 絵巻物ナリ 是ヨリ遡リテ 百二十五年 享保六年
紀州熊野浦ハ 我ガ国ニ於テ 古来 [illegible] 享保十三年 [illegible]

此図鯨之條ニ曰云ク
第八、、、、
トアリ數字通增
ノ序アリ直卷
此鯨魚ハ鯨ノ異
大ヰ小異シテ有
異本アリ又
其図猫猫ノ図
アリ異ハ物為ノ
異ト大作也

玄宗書之 鯨鯢図一幅ハ 古ヘ保字年（百二十七年） 紀州熊野太地村古座村ノ両村ニ（一本太地）
作ル所ナリトアリ 其図採ヲ見ヘニ 太地角右衛門 鯨魚捕采図目
トテアリ 稿巻ト両様ナル図ヲ選ミ 同名ナレド此 漢文ナルヘシ ニナリ [illegible]
トキハ 御[illegible] 玄鯨ト図地ニ [illegible] ノ [illegible]
具 玄宗所[illegible] [illegible] 衣ノ図ヲ選ヲ優ルトスヘシ 但シ此隠ノ書ニ
寛保二十年 写本ノ写本アリ 著述ノ年月ナキト 紀元 [illegible]保ノ初ニ
書リタモノナラン

此本ハ[illegible]目ニ外ニ一帖
勢南補遺鯨族図
諸本ノ図ト同ジ 但ヲニ[illegible]
鯨十 鯱三 [illegible]
旗魚二 鯱一

昔時ハ四ツ
表紙
鯨捕法
肥前州大村捕
鯨図

鯨図志 ○
捕鯨志 ○ ○ ○

○京四圖ト四部 十九年ノ十二月廿九 [illegible]

博物館鯨図書（写） 谷村[illegible]張 [illegible]
（1）鯨記一巻 序漢文 十九年十二月 [illegible] 鯨図 [illegible] 甘言居士
末ニ鯨 鯱 海豚 等ノ図 廿一 [illegible]
（2）道の番鯨之紀の巻 （1）ト同名 [illegible]
末ニ肥前[illegible]ノ図アリ 前（1）ノ末ニ鯨図也
肥前鯨図一巻 [illegible]
（3）寛政十年 冊一 鯨二百図 [illegible]
（4）各十巻 （3）日名 [illegible]
（合）各一巻 （3）ト同名 [illegible]
末ニ[illegible]図 [illegible]

（七）

写版版写

文政三年三月ノ 安川甫之ニ 鯨ノ図 …
追テ 追テ 二三 捕ヘアリ ニテトウトモフ鯨 …

〆五冊

鯨史稿 写 二冊 （水産會蔵 九ノ） 大槻準編輯

鯨志 版 一冊

勇魚取絵詞 版 一冊 寛政戊午五月 …

勇魚捕絵図 写 一冊 …

〆 五冊

…

(甲) 定備 但(丁)ト同シ只(丁)ニアリテ(甲)ニナキモノハ漁船ノ図及鯨筆ノ称呼ナシ

[鯨絵図] 北田半 …

(乙) 定備 但シ二三ノ図ハ(甲)ト同シキモノアリ

(丙) 無題 鯨ノ漁ス図 他ト同シキモノナシ

(丁) (甲)ト同シ本ニハ前ノ(漁船ノ図)ナシ

[南紀熊野浦漁者太地角右衛門四郎鯨突…図目]

(戊) (乙)ト異ハナシ 故ニ前ニトシ 但シ完本ニ未詳

[魚ノ蛮] 鯨ニ図アリ 他ト同シキモノナシ

(己) [紀州鯨之図] 此書ハ載スル者ハ (甲)(乙) 両書ニ出ツ

東京大学総合図書館

一 水産博覧会事務局
鯨魚覧笑録
一 修補者 録元 二冊
一 小原桃洞著 刺鯨図説

一昔前ニ信ハ日ノ大事業…

鯨ノ長サ拾三間ッ三
十九年十一月七日
丸山寫

東京大学総合図書館

写版取写

一昔ヨリ信ハ日ノ大事要隣
[illegible]
志村トテ三郎[illegible]
[illegible]
[illegible]

三月
第三
廿日
[illegible]

十月
[illegible]

東京大学総合図書館

口上之覚

[illegible]

十月九日

田中左房

[illegible]

享保之年ハ
明治六年迄
百五十三年

南紀熊野浦　漁者太地角右衛門所蔵鯨魚種品図目

表紙とも　一巻　田中芳男鈔

漁艇図　ミヅ銛ノ図　ケンノ図　〆三図

座頭鯨　児鯨　背美鯨　アカボウ鯨　長須鯨

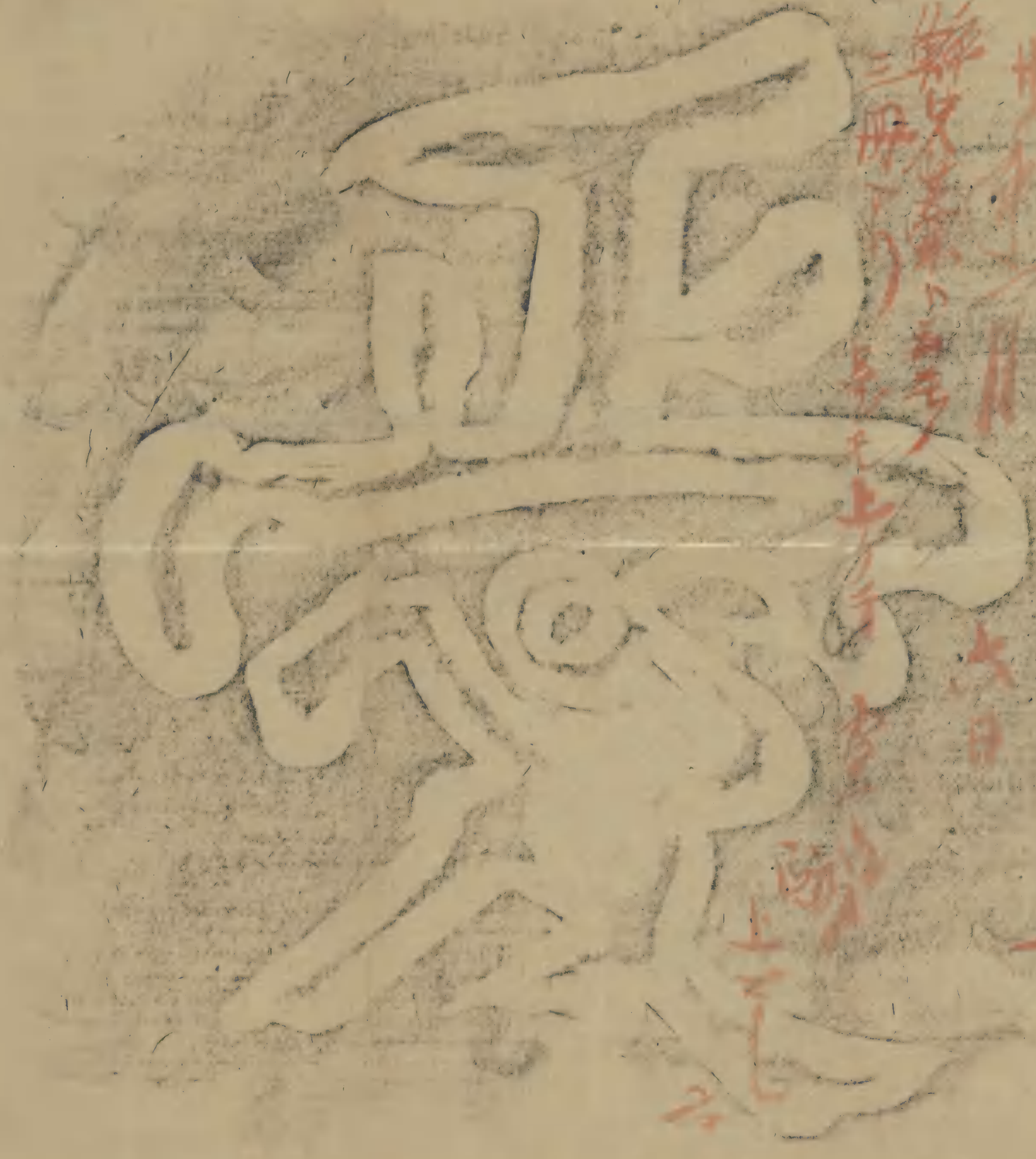
サカマタ　ツチ鯨　マッコウ鯨　ノソ鯨　鰯鯨

コト鯨　〆十一図　合十四図ニ解説アリ

是ニ　享保年中紀年六月廿八日大森浜ニ方

享保ハ　同七月三日書　フヽ江戸風光明大家更林

不蔵残署写之終　下ニ無之ハ　享保ノ初年着ナ



[illegible]

此外ニも鯨ノ[illegible]

[illegible]房津鯨図

ミヨミムシら[illegible]鯨[illegible]物

鯨[illegible]鯨図

熊野大地[illegible]鯨[illegible]図

海鯨図

右図相出候間御覧候也

廿[illegible]日

尚鯨史稿ト申書[illegible]三冊[illegible]

[illegible]

封筒内資料 東京大学総合図書館

[illegible]

封筒内資料 東京大学総合図書館

山口縣
Yamaguchi-ken
信三六九號
Department (II)
第二區　第一類　第一部
Class (1)
No. of Article (344)
Article.
material from whale
鯨ノシ
Producing place
Setosaki-ura, Otsu Kori, Nagato
産地　長門國大津郡瀬戸崎浦
Exhibitor.
M. Shioya
出品人　長門國大津郡瀬戸崎浦　塩谷文爾

明治廿七年迄九十二年

鯨魚覧笑録　農商務省　明治十三年購求　大幅一巻

序文ノ筆者ハ　生島仁左衛門常敬トアリ　年月ナシ

唯序文中ニ寛文八丙辰年ヨリ鯨組主トナルノ語アリ

然ルニ丙辰ハ寛文八ニアラスシテ寛政八年ニアリ　寛文ハ誤ナラン

然ルトキハ悠之軒著述ノ年ヨリ六二年後ノ年ナリ　巻末ニ

此図漁夫生島常敬筆於浪華江渠館川島運暢写

ノ二十字アリ

九州捕鯨浦之ノ五島領柏浦鯨組納屋場ノ図

五島西江領柏鯨浦ノ図

五島領黄島鯨漁ノ図　唐津領小川島ヨリ鉄砲鯨売所迄ノ洗場図
小川島ノ図　小川島鯨組納屋場ノ図
五島領有川鯨漁ノ図　五島領有川鯨組納屋場ノ図
鯨組前細工ノ次第　網漉之ノ図　前細工場并洗場ノ図
組出ノ品寸法ヲ記シ　勢子船新造仕立ノ手法
鯨突道具ノ図　勢子船一艘諸道具仕込方　双海船一艘附之道具仕込方
鯨船双海船并新酒造方　大納屋内定住居人数ノ次第　図
小納屋内住居人　前納屋同　鯨船沖備方三結ノ次第
勢子船鯨追廻網ニ追込ノ図　双海網ヲ張ル図　両表図
鯨掛取持双ニ掛タル図　恰同納屋場ヲ鯨割ノ図

紙儀扱

勢美鯨ノ図　座頭鯨ノ図　長須鯨図
児鯨ノ図　鯨割方ノ次第　鯨其外名所ヲ記
生納道具ノ次第　大納屋内但鯨収納ノ図
前納屋但鯨両収納ノ図　鯨組仕出ノ節羽指踊ノ図
鯨組祝儀節ノ歌

〆紙数百五枚

右巻ノ順序ノ似タケニナキ　同様ノ事似タル之アリ　然ルトキハ
修之新ノ著ニヨリテ増補スルモノカ　或ハ他ニ拠ルヘキモノア
リテ修之新之　生島ニ書キ　抄リモ之ノ也

特郵葉料捏法

一九十九衝（ヅヲモ入）……

一雲珠系……

右倉煎ヲ調……

氣ヲ除キ水……

鉢ヘモノ碗……

又九十九ヲ……

数々並べ右一切宛ヲ入レ沸湯ヲ徹シ葵ヘ回リタル時初メ徹シタル器ヨ

ヨリ順次ニ傍ノ鉢ヘ葵汁共ニ移シ如露ヲ以テ高ヨリ水ヲ注ク水面ニ

油玉浮ナキニ至ルマデ（皆同時水中ニ置キ [illegible]）一覧ツヽ功残シ又根元ヲ水中

ニ擭棄シテ粉箸ヲ以テ取リ置ケル先ニ敷巾ナ四重又ハ六重ニ折リ

水ニ浸シ堅ク絞リテ数十タルニ列ベ（内一重ハ一度）水ヲ去ル了凡二十分時

随應合第一原本 唐紙ニ有之

郵 [illegible]

同年同十月十二日

録 [illegible] 博物館 [illegible] 氏

寫生 [illegible] 起 [illegible]

[illegible] 不仕 [illegible] 通 [illegible]

氏 茂 版

鯨割尾毛（羽）調理法

一 九十九獅子（ツクモモト）〔短冊、手九花、群鳥、白蝶、龍頭〕一サ花中ヘ

一 雲珠巻

右合照ヲ調理スルニハ湯ヲ徹シ油氣ヲ去リ暫時冷水ニ晒置キ塩氣ヲ除キ然ル上ニテ木綿ニ包ミ又ハ手ニテ絞リ適宜ニ種数ヲ揃ヘ鉢ヘモリ醋味噌ニテ食スルナリ

又九十九ニシ ウズマキ ノ二品ハ 鉢ニ水ヲ湛ヘテ其飯碗位ノ器ヲ数々並ベ右一功宛ヲ入レ沸湯ヲ徹シ其ヘ回リタル時初メ徹シタル器ヨリ順々ニ傍ノ鉢ヘ其汁共ニ移シ如露ヲ以テ高キ水ヲ注ノ水面ニ油玉浮ナキルマデ（暫時水中ニ置キ油気ヲ除ク）一観ツヽニ功ヲ揃ヘ根元ヲ水中ニ擬豪シテ粉箸ヲ以テ取揚ケル先ニ敷巾ヲ四重又ハ六重ニ折リ水ニ浸シ堅ク絞リテ数十枚ニ列ベ（内一重ハ[illegible]）水ヲ去ヘ一九二十分時

[illegible]

一隨園食單ニ於テ[illegible]

[illegible]

[illegible]

三月十日

[illegible]

田中先生 侍史

同ニシテ鋒ニ[illegible]ん

右者肥前國東彼杵郡大村町本通西村儀輔ノ製造ニシテ九分ニシテハ甚タ嗜好シ殊ニ長崎ニテ賞美スル由ニテ品評方ヘ送リ来リ候ニ付諸ニ差上候

三十年三月十八日　下田[illegible]ノ義

田中芳男先生閣下

鯨剣尾羽毛

右細剣ニシテ[illegible] 此品樹屋ナリシヲ得カキタルヘヒリシテ河豚毛 破味[illegible]付ケテ食ス 甚脆美ナリ

観鯨骨之記

明治三十一年九月第七回水産品評会ヲ丹後国宮津町ニ開クヤ其出品中最人目ヲ驚カシタル者ハ長須鯨ノ骨骼ナリ此鯨ハ本年六月十五日伊根浦ニ於テ捕ヘ所ニシテ全體ノ長サ拾五間餘胴ノ周リ五間半アリ而シテ其収益ハ凡金一千弐百圓ニ達セリ鯨ハ骨骼ヲ壹部セシ價金八拾圓ヲ得タリト云フ抑丹後国與謝郡伊根浦ハ宮津港口ノ北隅ニアル小浦ニシテ前ニハ青島ナル一嶋ヲ立テ内外ノ漁業ニ適スルニヨリ漁家ハ軒ヲ列ネ比スル地ヲ餘サズ而シテ海内ニ水族ノ集来スル所ハ勿論鰯海豚ノ群ヲ為シテ游行スルヲ見ル又稀ニハ鯨魚ノ来游スルコトアリ其時期ハ大低三尺五六ノ

四ケ月トス若シ鯨ノ湾内ヘ進入スルヲ見レバ速ニ島ノ間（津）所ノ西ノ海峡ヲ封鎖シテ捕獲スルヲ常トス原ヨリ潮流ニ従ヒ湾内ニ誤リ入ルノ鯨ナレバ一時ニ多数ヲ見ルコトナク一年ニ一頭乃至二三頭ヲ獲ルニ過ギズ其記録ハ広説録長説録ニシテ本年獲ル所ハ長説録ナリシ」此湾ニ於テ鯨魚ヲ捕獲スルコト久シキ昔ニ在ル所ニ據レバ明和三年ヲ始トスレバ今ヲ距ルコト一百三十三年前ニテ今ヨリ本年ニ至ル所ノ者マデヲ算スレバ凡一百七十二頭ニシテ往前ノ所ニ私ノ外古谷長録スアリシガ維新後ハ全ク之ヲ捕ハズトス如斯鯨ノ湾内ニ来游スルハ全ク天賦ノ良港アルニ因ル自然ニ捕鯨ノ業ヲ実験セル以上ハ居ナガラニシテ鯨ノ来ルヲ待ツニ止マズ進ンデ外海ニ出猟スルノ道ヲ講究シ船舶器具ニ準備シ遠洋漁業ヲ興サバ必ズ今[illegible]ニ侵獲スルノ利益ヲ収ムヘキ（ハ外ト疑ヲ容レズ）益ニ斯業ヲ起スノ祉ヲ仍ヘニ臨ミ悔果ノ歩勝ヲ出ヲ同相湾ノ斯業家ニ望ムト云爾

明治三十一年十月四日

大日本水産会幹事長従二位勲二等田中芳男識

但此湾ノ某年某月之為ヲ倡ヒ置クヲ記シ要漁捕鯨之湾 米倉ノ記 青木等記

明治三十一年九月大日本水產會第七回水產品評會
ハ長次録ノ翁勝ナリ此鯨ハ本年六月十五日同國伊
ニテ其收益ハ代金弐千五百円ニ達ヘシト評判ヲ
柳州後國千歳郡伊摂村ニ官津港口ノ北端ニアル小
漁家ハ新ヲ利スルヲ才地ヲ餘サズ努メテ満潮ニ水接
魚ノ未游入ルコト有リ其時期ハ大凡三尺五六ノ四
封鎖シテ捕獲スルヲ常トス潮流ニ從ヒ浅
金ニ三頭ヲ獲ヘニ過ギズ其捕獲ハ長次録
此港ニ於テ鯨魚ヲ捕獲スルコト久シク当地ニ存スル
ニテリ其本邦獲ヘ所ノ者モザヲ捕スルハ此一頭
金ヲ之ヲ獲ルトモヲ如斯鯨ノ河内ニ来游スル者
ヌニテ鯨ノ居ヘヲ使ツニ止メズ常住ニデ外海ニ出
ニ使能ス人ノ利益ヲ收ムベキコト鯨ヲ容ハズ益ニ

明治三十一年十月四日

干大鯨肉ノ了 松原氏ヨリ 以上 扣 大手町

拝啓 一昨二日当帰業之由承相通御示之事相成り候 大鯨
乾肉御送付下され拝受仕候 右ハ先般も北見より持参致し候人
有之試売致し見込ニテ先ハ室伏ニ托シ試売致候結果東京ニ於テ
ハ迚モ売捌ケ不申尤モ性ナキニテ売ヨ敗ニハアラザレド我邦ノ西
便ニテ供給者ニ於テ引受不申寧ロ塵挿シテ塩漬ニセバ四五
貫目位ヲ売し申候其方却テ手数モ省ケ至極便利ナルトノ
コトニ御座候 軍用ノ了ハ所生ニ於テハ存不申候 其ノ処ニテハ
六ケ鋪かと存候 是ハ陸軍糧食部ノ人ニ向ツテ外ナレド
存候 皮ハ河豚皮ナミ用立居り候付少ス多分ニ需用可有之ト
存候 使用向ハ先ツ麻裏ノ前後ニ当てるが第一かと 輯メセバ

干大鮮肉ノ丁 桜原氏ヨリ野路久平氏ニ出ス扣 大正[illegible]

拝啓一昨二日御帰葉ニ由リ御通知ニ依リ拝承仕候 大鮮乾肉御送付下され拝受仕候 右ハ先般モ北見ヨリ持参致され候人ヨリ之試売ヲ見込ミテ先ツ室伏ニ托しテ売捌キ候結果東京ニ於テハ八迄モ売捌ケタルモ尤モ此ラ如ク売販ニハアラザレドモ乳牛ノ飼便ニテ供給者ニ於テ引受ケ申候 要目位ニ売レ申候其方法ニテ手数モ省ケ至極便利ナルトノ事ニ御座候 寧ロ塵埃ニテ塩漬ニセバ四五十ニ依リ軍用ノ丁ニ助ケ生ニ於テハ不取不敢ノ先キノ処ニテハ六ケ鋪カルベシトノ事 是ハ陸軍糧食部ノ人ニ向ツテ外ナルト存シ候 皮ハ何様皮ザ入用ニ居リニ付少ス多分ニ需用アルベキ之ト存ジ候 使用向ハ先ツ麻裏ノ前後ニモ可ケ候加第一ナルベシ 鞣メセバ

鯨猟覚記

明治三十一年九月大日本水産會愛方七回水産品評會ヲ西宇和郡八幡町ニ開設ス其中出品中最モ人目ヲ驚カス者ハ長須鯨ノ骨骼ナリ此鯨ハ本年六月十九日同國伊根浦ニ於テ捕ヘタルニシテ其全体ノ長サ拾五間余胴ノ周リ五間余アリ而シテ其収益ハ九金弐千五百円ニ達ヘリ為ニ該骨骼ヲ倫敦ヘノ後ニ寄附セシ便金八拾円ヲ得タリトイフ

抑丹後国与謝郡伊根浦ハ宮津港口ノ北隅ニアル小湾ニシテ湾口ハ青島ナル一島峙立シ内外ノ区画ヲ成ス漁家ハ斬ク列ヲナス地ヲ余サズ而シテ湾内ハ水族ノ集マル所ニシテ捕鯨漁豚ノ群ヲ為シテ湾内ニ入ルコト多ク且ツ文禄ニ鯨ノ来游スルコトアリ且ツ明ハ大抵三四五ノ四個月トス若シ鯨ノ湾内ニ進入スルヲ見レハ速ニ魚ノ棲遊海峡ヲ封鎖シテ捕獲スルヲ常トス因ヨリ潮流ニ従ヒ海湾ヘ誤リ入ルノ類ナレハ一時ニ数頭ヲ見ルコトナシ一年ニ一頭カ弐ニ三頭ヲ獲ルニ過キズ其捕獲法ハ古歌縁長治録ニ有テ本田猟ヘ収ハ長治録ナリトシ此湾ニ於テ鯨魚ヲ捕獲スルコト久シ蓋シ此ニ存スル所ニ據レハ明和三年ヲ始トスレハ今ヲ距ルコト一百三十三年前ニデリ斯界本日獲ル所ノ皆ヤザヲ算スレハ凡一百三十二頭ニシテ住所ハ一陸ニ沿ノ外古昔ヨリ縁モアリシカ記録ナラ會ウ之ヲ獲ズトテ也断鯨ノ河内ニ来游スルハ是レ天賜ノ恩沢アルニ因ル既ニ捕鯨ノ業ヲ実験セシ上ハ居ナカラヨコテ鯨ノ来ルヲ俟ツニ止メズ當進ニデ外海ニ出獲スルノ道ヲ講究シ捕鯨器具ヲ準備シ遠洋漁業ヲ興サバ必ス利ニ倍蓰スルノ利益ヲ収ムベキコトハ疑ヲ容レズ茲ニ記シ観覧ノ後ニ記ヲ作ル人ニ臨ミテ将来ノ発達ヲ望ムトイフ爾

明治三十一年十月四日

大日本水産會幹事長従三位勲二等男爵[illegible]識

東京大学総合図書館

此又猟構ル中着烟等大等ニ用井ルヽモ内務省又ハ農商務省

ヨリ注文云々ハ野生存不申ヘ一些先ニ水産會ヨリ二冊ノ目

的ヲ以テ試験致為ス候若シヨバカリヒニテモ出シテ置ヒ度候右傳言致

度右依頼迄早々

廿七年
九月廿七日　松原新之助

田中先生

侍史

鹿児島 …… 慨

セシト …… 同

ラ新ニ ……

ル外ニ …… 地ヘ

ザトウクヂラ ……

ノソクヂラ　ツチクヂラ　アカボウクヂラ　コトクヂラ　鯨皆千口張同　ケ井ナイラキ

コチラクヂ　イワシクヂラ　セミクヂラ　ワニクヂラ　マッコウ　ケ生ノ六三回　第ヽ鯨冊ニ

鮮一　鯨蔵一　合計廿六回ナリ　此回様ノ見ハ往来甚ニ澤ミル所ノ紀伊

ノ鯨同ト大体相似タルモ此ノ名コソナキ　同所ニテ　捕鯨アリシナリ聞クナキニ故ニ大島ヲ

東京大学総合図書館

必ス張構ヘ巾着烟草入等ニ用井ルヘシ内務省又ハ農務省
ノ目
より派
的ニ説
ニ
大七年
九月

三丈二尺許

潮汐ニ而尾ヲ設
此ノ寸法

鯨節放ノ下野屋ヲ西ヨリ
下野屋長右衛門ニ来ル
テ實

大正十二年大

桜川

鯨図ノ評

鹿児島縣大島ニ於テ鯨組ノ類人ニ随ヘ図巻ヲ友人某氏所蔵
セリト樋口兼三君ノ話ニテ稀有ノ物ト考ヘ同君ニ請ヒ借覧スルニ古キ図
ヲ新ニ装成シタル巻物ニテ表紙ニ其年月ヲ欠キタルモ図上ニ鯨ノ名ヲ記ス
ル外ニ鯨ノ解説ナシ而シテ其図ハ スナイハカ マイハカ ニホンゴトウ タイゴトウ
ザトウクジラ コンクジラ セミクジラ ナガスクジラ イワシクジラ マッコウクジラ サカマタクジラ
ノソクジラ ツチクジラ アカボウクジラ コトクジラ 鯨皆千口張図 ヒガキナイクギ
コナイラギ イラギサワ セサワ ワニサワ マンボウ ケ主 ノ六三図 其ノ鯨舟ニ
鉾ニ鯨蔵一 合計廿六図ナリ 此図様ヲ見ルニ往来古キ陽写シ所ノ紀伴
ノ鯨図ト大体相似タルモノナル又同所ニテ捕鯨アリシ事ヲ聞カザルニ故ニ大島ヲ

守之人ノ口碑ハ言傳フルカ如キモノ〻如シ 原来世ニ傳フ鯨図多シト雖モ多クハ
紀伊熊野浦太地角右衛門ノ家ヨリ出ル所ヲ植写スルモノニシテ 紀伊ノ捕鯨ハ
殊ニ古キニヨリ 慶長年間ノ鯨図ヲ初メ 享保八年ノ図ヲ写シテ 宝暦八
年ニハ鯨志ノ刊行アリ 安化、肥前平戸（松浦氏）生月島ニテ捕鯨ヲ見タリ
寛政年間 肥前唐津人ノ著ス図巻アリ（御用） 文政年間ニ至リ平戸藩
ニテ書キシ勇魚取絵詞二冊 鯨肉調味方一冊ノ刊行アリテ 唐津人ノ図ス
大低紀伊ノ図ニ據リテ見ル 我邦ノ鯨図ハ大低紀伊ノ図ニ基クモノト
云フベシ 記シテ他日ノ参考トス

明治廿二年十二月二日

東京 田中芳男記

宗匠ノ口碑ハ甚信ズベカラザルモノ多シ 原来世ニ傳ル 鯨ノ句多シト雖モ多クハ
巴伊勢ノ哥ヨリ出テ [illegible]

右の発句 [illegible]

[illegible] 松京 [illegible]

田中先生

鯨ハ 貝八 [illegible]

一 鯨ノ煎滓(イリガラ)ハ 脂肪ヲ切リ油ヲ取リ(トリ)タル滓ナリ [illegible] 全クノ滓トナラズシテ上方ニテ好ム [illegible] 知ラズ 塩鯨ト名ヅケテ 尚 [illegible] 煎リ汁ノ身 味噌和 [illegible] 細ニ切リ [illegible] 大正二年 [illegible]（[illegible]ト云フ）

又曰 旧幕ノ時 土用ノ丑ニ 鯨ヲ食フシハ 其角 [illegible] 江戸ヨリ [illegible] 芭蕉ノ句ニ「六月や鯛ニ勝チタル塩鯨」 今津地方 [illegible] 今モ吸ムモノ [illegible] 信州地方モ吸ムモノナリ [illegible] コレラ病ノ流行ナリト [illegible]

東京大学総合図書館

南紀ゟ差越候書通之写左ニ
捕鯨一条ハ先日注進申上候通再三御座候
之儀ハ不及申候 然ル処当月二日未ノ刻去ル九十七日
之時出船同所ニ而 極鯨二疋捕獲母鯨ハ長サ
三十七尺児鯨ハ雄ニして丈二十尺余有之同日未ノ刻
十斤銛を投し前後三時間ニ而両鯨突留め順風
ニ依り同夜十一時和歌山ニ到着會ニ而諸大臣通リ有
供一覧ハ此後大天狗ニ而の繁昌ニ候也

黒川御殿
黒田芳男様
小出鎌吉
何卒御一覧被下度候

大鯨頭之供リ
受ケ取之図
[illegible]
同

田中芳男様

星野保清

神奈川縣下大磯宿字下町
千百五十五番地 佐藤雲洞方
田中芳男様
星野保清

郵便はかき

此表面ニハ宿所姓
名ヲ限リ認ムヘシ

東京大学総合図書館

謹啓益御清福奉
賀候然者先般
華墨南海捕鯨
之彩図御恵与被
一先返却[illegible]
[illegible]
[illegible]

四月[illegible]日　　清

畢先生
机下

大鯨頭之図
受取候之図

捕鯨之図

禮楼益御清福奉
賀候 然者先比
華墨南海樹録
御影図被下御覧之處
一先返却之義申候
當人へ罷出御手元御届
申上候 宜しく御願申上候
別日 御清
覧先生 机下
要申 此者竹中孫助
通候 右ハ二十 動申候
尹輔 病人ニ付御世話
手前 目出度御座候
拝具

南海鯨漁図

此図ハ「アメチア」、「ウキルソン」又「カストル」三船カ「ボーロ」島近海ニ鯨漁ヲ為ス所ニテ大頭鯨ノ捕獲法、運搬法及解剖ノ甲板ニ於テ之レヨリ採油スルノ法ヲ示ス

（マレー群島ノ一ツ）

此図ハ海事画工ダッリエ、ゼー、ハウギンス氏カ前記三船ノ所有者タル、スミトン、スチヘトン、又ニコルス三氏ニ謹呈スル所ノ者ナリ

彫刻者ハテ、サーザランド氏

倫敦千八百廿五年一月一日 ダッリエ、ゼー、ハウギンス出版

大鯨頭ヲ侵シ舟ノ死スル之図

一漁船 傷ヲ受ケタル鯨ノ為メニ粉砕セラルヽ図

関沢氏ハ借ラレタ捕鯨之図

数面一枚二階ニアリ 関沢氏

ニ貸渡すべし

二年二月二十日 芳男

田中芳男宅へ

東京大学総合図書館

南海鯨漁図

此図ハ「アメチ亞」、「ワキハシン」又「カストル」三船ノ三船カ「ボーロ」島近海（「マレー」群島ノ一ナル）ニ鯨漁ヲ為ス所ニシテ大頭鯨（スパルマセッチ鯨トモ云）ノ捕獲法、運搬法、子殺ノ甲板ニ於テ之ヲ凹斬（切断）シテ採油スルノ法ヲ示ス

此図ハ海事画工ダブリュ、ゼー、ハッギンス氏カ前記三船ノ所有者タル「スタントン」、「スチルトン」、又「ニコルス」ノ三氏ニ謹呈スル所ノ者ナリ

彫刻者、テ、サーザランド氏

倫敦千八百九十五年一月一日 ダブリュ、ゼー、ハッギンス出版

大鯨頭ニ偶ヲ受ケ死スル図

（漁船）偶ヲ受ケタル鯨（衝所ヲ）翻覆スル図 製図（署名）

為御 此節竹中鍛冶か
通信有之承り度く候
乃御し病人之がくおこ此者
まま目のむ由陶器の段
修ア細し

Painted by W. J. Huggins, Marine Painter to his Majesty. } The Head of a large Whale in the Agonies of Death.

A Boat destroyed by a wounded Whale.

South Sea Whale Fishery.

A representation of the Ships Amelia, Wilson & Castor off the Island of Bouro — with their boats & Crew in the various process of fishing, shewing the manner the Spermacetti Whales are caught also the mode of cutting them into the Ships, & Boiling the Oil upon Deck.

This plate is most respectfully Dedicated to Ph. Skelton, Andw. Bristow, & Wm. Nichols Esqrs. Owners of the said Ships, by their most obedient Humble Servant. W. J. Huggins,

London, Published January 1. 1825 by W. J. Huggins, Marine Painter, No. 105 Leadenhall Street.

Engraved by T. Sutherland.

一 鯨肉 二斤

右者水野三連より寄配申上候様贈り来り今日為ニテ割分持参仕候

并孝充上九

可の千かく

向中目前之

お指図

お伺候

スナメつし

お物とつ

此何 堪与日ミ

ら与参

申し

十六日 他こお名

白 名花

余

余

一 鯨肉 二斤

右者水野□遠より寄配

申上候様贈り来り今は

爲ニテ割分持参仕候

□ニテ孝□上九

すの千たく 何□日□□□

鯨カフラ骨粕漬 肥前 小川□四□□ 七浦鯨

鎬本年三月廿四日到来

ウスクキリ 糖ヲカケ候ス

右一切ナ孝逞

らしき之 何□□□□□□

田中様

一 鯨肉 二斤

右者水野三漣ヨリ寄贈

申上候様贈リ来リ今日ハ

田中様ヘ持参仕候

鯨カブラ骨粕漬 肥前小川島四五郎 七浪鯨

鎬本筆三百五十目

ウスクキリ

精ヲカケ候ハヽ

右

一切ナ 調達

田中様

東京大学総合図書館

お茶每晉佛西例
お伺笑無入佐イルカハ
スナメコトハお物とも戎鯨
お物とて客鯨之[illegible]
[illegible]

[illegible]体との組ちもを
ウレクギラ
ハうんや又イワレクギ
アんや（コクギラミ白 [illegible]）
十六ハ他こ名

一
鯨記
Magaptera kuzira
Baleana japonica
Catodon macrocephalus
Spermwhale
Physalus iwasi
Grampus sakamata
Delphinus longirostris

一、

肥前小川島産
鯨カフラ骨粕漬　七須餘
鏑木、軍三郎殿御手
ウスクキリ糖ヲカケ候ス
右一切手筆
らしきもの
何卒宜敷願
田中様

お於毎皆様益御健勝
お伺申入候　イルカハ
スナメコトハ　御物ニ就
御物ニて宜敷御座候
此段早々已上
かしく

係との紙ち
ーワレクヂラ
ハウんや又イワレクヂ
アんや（コクヂラニ白腹アリハ有之）
十ニハ他ニ御名

東京大学総合図書館

又書ル処ノ 抵鯨ノ
署名ニ Delphinus
longirostris ト記シ 画ナレハ
何ゾ若干生セヤ
D. longir—— ハ
頭部ハ稍ニモ長シ
上下ノ顎ニ▲形ノ歯アリ
連子ヲ列ラネタルトアレモ 然レ
ニ抵鯨ハ歯ガ下ニモ
四個アリ上ニハナク其形
モ甚大ナリシ 大ニ異
ナル

…係ニ而紀元ヒト
ワレクヂラ
ハウンヤ又イワシクヂラ
アンヤ（コクヂラニ白髭アルハ名モ）
其ハ他ニ名

…四色
七須鯨
鯨白別名
名乃又
字田夫シ

イセ及其近海四日市
格木トアルモノ何千帳キテ
及長キモノハ〔傳ハ長サアテ何ニ依ル〕西例四千く
ルカト唱ヘ越シ言フ何トヤスガ來候
赴ニ寄候なをあり　又
言上候　杉本新兵衛

田中生之心

此西翔ガうたノ件ニ付何れもと候
高り系し

コクヂラ、イワシクヂラ
なれ答鯨ヲ異ニンヤ又イワシクヂ
ラハ眞ニアルヤ鯨アルヤ（コクヂラハ白鯨ナルヤ）
紀州ノハチクヂラハ他ニ何名
アルヤ

Urogymnus

asperrimus Sthr.

fam. Trygonidae

東京大学総合図書館

○錦ハ衣ヤ所ニハ印ヲ利ノ
手甲ニ錦ヲ一ツ入ル也
ノリ錦ト申事ニ而候也
東ニテハ左様ノもの都
於陣ハ白 四半[illegible] 鳳凰
[illegible] 大キサ 如此
其モノ裏ハ唐錦ニ仕候 [illegible]
於陣ハ白 [illegible]
又ハ龍ニ天[illegible] [illegible]
モノ言 [illegible]
[illegible]

〇鍔ハ鉄ヲ以テ作ル

土ハ小ナル

ノ

鍔

田中芳男様

出典

ノハ鍔ノ圖

少々

ニ記載セシ

指物ハ

此開ニ在ル

ノ

しこ

刀鉄ノ柄ニ附スル鍔

あ状ニシテ手ヲ以

東京大学総合図書館

○[illegible]

一 二ヶ所ニ而家来弐頭 [illegible]

[illegible]

大小方

此ハ[illegible]も為致し [illegible]

鮮

田中廿

此段先年[illegible]候

[illegible]

十八日

当年十一

[illegible]

[illegible]

[illegible]

東京大学総合図書館

[illegible]

三四五 明[illegible]、

[illegible] 軟[illegible]白[illegible]

[illegible]

田中芳男様 中島位

於屋気ハ先ヅ白表、
皮剥ニ包ミ三宝ニ錦ニ而
二様ニテ皿ニ七分ノ生陳
ナミヽ毎日星キ実ハ炊テ
清白ニ製スルモ宜シ
此以浸水ニ一昼夜浸シ
置キ小口ヨリ可成薄ク
切リ初メ微温湯ニテ
洗ヒ浸次熱灰ヲ加ヘ
煮ルニ熱シ其時冷水
ヲ以テ三四度晒ス時ハ
和色トナル軟ク且ツ白シ

方ハ揃候ニ付直ニ名元ニ
然ル処ハ小口ヨリ被仰
り前ノ手続ヲ以テ調製
致申候ハ至極御尤ニ
西成下又大坂ハ先ツ御
了上候御儀ニ御座候
呉々宜敷奉願候
猶又期後音之時
[illegible]

四月廿日
梶川[illegible]
田中様

一其後[illegible]様子之御沙汰

小河拙者拝

如此皆法起て
ハヤチレノコハ法説ノ
ぬノコサカてらして来れし
一其伝張楼ノ金銭
川向知りとり

カハ指債證包免もコ
ハミハろ守めり和
国[illegible]
[illegible]

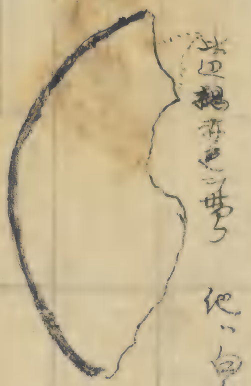
右ハ按摩ニ読ミ候モ可
ハ之ニヨリ予リ湖ノ御
覚悟候得 トクヒレニ
ニシヤチ名アリテ多ク卜云ニ
是等ハ其外其他ニモ
ニシヤチト云名ノミ残ル出来候
扨ハ之ニ 何物モ 何
五本 何物ヨリ シヤチト
猶又 此 書 五経
之無 西 之也

東京大学総合図書館

方ハ擅讀致ニ參リ申候
いつこ以子男り御影都にも
覚ちし件 トクヒレて
フ人本ちまへし やハこ之エ
十三日 松平
田中出之丞 殿

一 肆吉（代往）
河富ガ森
切支丹形瓦器
外印ニ黒胆着
是ハ剛ケレ石
他ハ皆気ノ工石
合セテ美物集リ

マイル力晴肉
伊三稲石



有栖川熾仁親王欧州ヨリ帰朝ノ際
英国倫敦ニテ鼈亀肉ヲ食セラレ味ハ美味
ナリシニヨリ十二頭ヲ携ヘ帰ラレシハ十一年
十一月ナリ（今年）右ヲ豢養セラレシガ内角逸出
未性種シテ（逃ニ）六頭ニ減セシニヨリ農務局ヘ
下附セラレ繁殖ヲ謀ラシメラル（四年）水産課職
内山下町農産陳列所ニ飼養ス八十八年十月ノ
初ニ至リ此頃ハ猶十一月十日同所ニ就キ親
シク点検セ写生スル所ナリ

有栖川宮ヨリ下附セラレシ之亀

謨亀ハ本邦産水亀ニ略似タル氏背甲ハ稍円形ニシテ
縁褐色ヲ帯ヒ前部ハ隆ニ後部ハ扁セリ
其前縁鋸刻セズ後縁ハ鈍鋸歯ヲ呈ス胸甲
淡黄色ニシテ後部ニ半月状ノ截痕アリ頭項等緑
褐色ニシテ不正ノ黄線ヲ雑フ
棲スル所ハ北亜米利加アラバマ河ニ産スル種ニシテモビル
（名）ニ於テハ之ヲ食料ニ供シ頗ル貴重スルモノナリト云フ
是レ Emys mobilensis, Holbrook,
英名 The mobile Terrapen ト名アル
所以ナリ

明治十二年十月廿五日

高橋数馬誌

毛亀

長三寸許ノ乾物ニシテ頭尾及ヒ四肢缺ケ損毀多シ

松原新之助氏ヨリ別紙ヲ添ヘ質問セラル余ハ之ヲ
見テ石亀ノ死シタルモノハ甲上ニ白毛壽香
ノ毛状ヲ滋テ着スルモノト鑑定シ答ヘ併テ
摩壽共ヲ示ス因テ又同氏ノ答アリ皆次ニ
貼付シテ後日ノ参考トス

十二年九月

田中芳男

又亀ハ西ニ常ニ水亀ト云ヘ
常ニ是毒ナ如シ

御暑時節ハ遠路を
雲ゆ覧乃お揃出宿
くるしき事にて物比来只
き陰年分前 出仕ノモノ
将来ノ修業と存し候ハヽ
右ノ陰ハ雲頭下ノ操

四

も寿ハ萬ハ其ハ毛ノ何故
ノ毛なれの明日これハ雲如何
御修業と存て茂四書分読
実ク旁も手にて 尤モ伺申ヨ
二ハ所持人 継新多
山口

長州役戦之節　山んかし
指揮採用し来意之持傳
三年目出生致し甚ね
難儀しなんとかなし　古而万経
軍旅知る最採東覧
家かかしとも

四年出なし生れし
此唯今西甲年の両衛
但甚只帰り無事
ままき其先ノ難十ニ在ニ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible] 由テ

[illegible]

[illegible]

裏島又ハ八表島ト云フ由

本縣ニテハ博物館ニ剥製アリテ動物属ニ差ツク是ハ亡
陸生ノ亀属ニテ其甲[illegible]田ニ胸板ノ中央ニ横條アリ
リ頭ト前脚ニツ餡ム八片ハ甚僅ヲ折レテ背甲ノ縁
ニ接シ頭脚ヲ且ツ是水亀ト異ル所ナリ 是最西名

[illegible]

[illegible] 北京[illegible]

献

臺湾[illegible]

裏ノ島又ハ表島ト云フ由

琉球亀

沖縄縣八重山群島西表島産

アカドノ類

明治十八年八月十八日

工部二等技手
山口縣士族
賀田貞一献

本亀四足ヲ博物館ニ献納アリテ動物園ニ養フヿ是ヘニ
陸生ノ亀屬ニテ其甲後四ニ胸板ノ中央ニ横條ア
リ頭ト前脚ニヲ縮ムル片ハ其條ヲ折テ背甲ノ縁
ニ接シ頭脚ヲ且ス 是水亀ト異ル所ナリ 是屬ノ名

△捕ヘ 此亀ハ 今田氏ニ求メ 養ハセシ

(Cyclemys [illegible]) ノ類ナラン アサノハガメ ギリシヤガメ等似タリ

此胸板ノ折レ亀ハ先年東京近郊ニテ一疋得タリ

頃日河和田ニテ獻セシ人アリ 今其図ヲ見ルニ胸板横斜ノ

様子ハ似タレ共甲ハ此者ヨリ高カラズ 頭形亦同カラズ且ツ

色赤黒ク鮮赤色ナリシ故ニ同物トシガタシ

九月十五日 水虎小笠原氏ニ来タリ

河原田氏曰 此亀ハ淡島ノ山中ニ居ルモノニテ淡島ハ

畏ニ人ノ入ラヌ処ニハ多ク又ハ知ラザリシ共 捕フルハ多ク持

ヘマジト思フ 勿論今回等ニハナサズト云フ

生活ノ様子ヲ見ルニ水亀ヨリ少ク陸上ノ異ハ稀アレ共

異似タリ 至テ穏ヤカナルモノナリ 然レ共陸亀ナレバ中亀

ノ如ク多クノ水ヲバ要セザルベシ △

明治十八年九月十七日 田中芳男記

蕃亀 希 清国畫録

水虎高キ番国ヲ取寄セ亀ハ山下ニテハ所謂成長ノ見込十年

ニハ 名家ハ記ケタルヨシ

関係ハ五番目ハ是ハ生セヌナリ

高橋謙ナル(深川西町土木局解語所守 金亀ト亀ヲ養フ人)

ハ十六日此方ハ死シ 故ニ今日又飲ミ食ハズ 判ヒ不起ニ動居

[illegible]如何見ヘヤ知ラズ

服中倉ヲ以テ(ハリ) 五十五ニシテ一疋モ攫マズ 嫌ヨリ剛シテ

[illegible]合ス

右本年 [illegible]尾 牧野氏ニ至ラズ 陸亀此亀ノ性ヲ見ルニ至テ剛

カヌナモノニテ 鼈ニ似タリ 故ニ好ミ之ヲ好ム人至テ少シ 唯一ノ

モノ水ヘ浸ケタリ 大ナル者ヲ食フ 餌亦ノ路ノ中ニ入ルノナリト

因テ本年ハ繁殖スベシト云フ

清国黄河ハ服ヲ合セテ行フ者ハ十分防御シテ
波ヲ避ケ上ハ柱ヲ列ネテ毫モ泥ニ沈ミテ入ルヿ工者ニ
シテ多年ノ功ヲ以テ労スルモノナリ又取テ為スヿ出テ
何故ニ能ク合スルヤ其流ルヽヿモ甚シテ遂ニ一定ノ路ナク
逃ケ去ルナリ
高低ノ方ハ洪水ノ為メ一定ノ居ナク
山下ノ池ハ水ヲ落シ波ヲ揚ケナカラ掛直ノ又更ニ
一定ス是ス
本ノ現田ニヨリ遂ニ東京ニアリ一定ノ除ヲナシト
論本性ニ男ノ語ナリ

十八年九月十七日　田芳記

蠵亀肉貯蔵法

蠵亀（シヨウガクボウ）ノ肉ヲ鉄葉鑵（ブリツキ）ヘ填充（ツメコム）シ之ヲ貯蔵スルニハ先ツ其肉ヲ適宜ニ切断シ桶ニ納レ塩漬トナシ（肉ノ貫五百目ニ付十分一ノ硝石ヲ和シタル塩壱合凡三拾目ナリ）桶ニ蓋ヲナシ適宜ノ押ヘヲ置キ十二時間ヲ経テ桶ヨリ之ヲ取出シ更ニ新ナル塩水ヲ以テ能ク洗ヒ而メ水氣ヲ滴去シ之ヲ鉄葉鑵ニ充装ス而テ清水ヲ適宜ニ注入シ（ハンダ）ヲ以テ其蓋ヲ銲着ス然ル后チニ之ヲ湯中ニ納レ華氏験温器凡ソ二百二十五度ノ熱ヲ以テ之ヲ煮沸スヘシ其湯中ニ食塩ヲ加フ（日本塩ハ塩氣ノ弱キアリテ湯中ニ加フル其量確定スル能ハスト雖氏凡ソ水六升外ニ塩壱升外ヲ加ヘテ熱度ヲ増加ス塩ノ分量等製造者宜注意スヘシ）故ニ鉄葉鑵及ヒ銲着能ク注意セサレハ煮ル片鉄葉鑵必ス破毀スヘシ而テ煮沸スルヿ一時間ニ至

東京大学総合図書館

「レモン」液貯藏法等合併ナリシカ明治廿三年一月替頓ノ為メ
分製ス

明治十二年二月廿四日　勸農局試験場町田実則ヨリ小笠原島武田ニ句廻稿

ヲサガメ　一名　ヤサバ　蠵鼅（ヘイマ）（本草綱目蠵亀條所載）

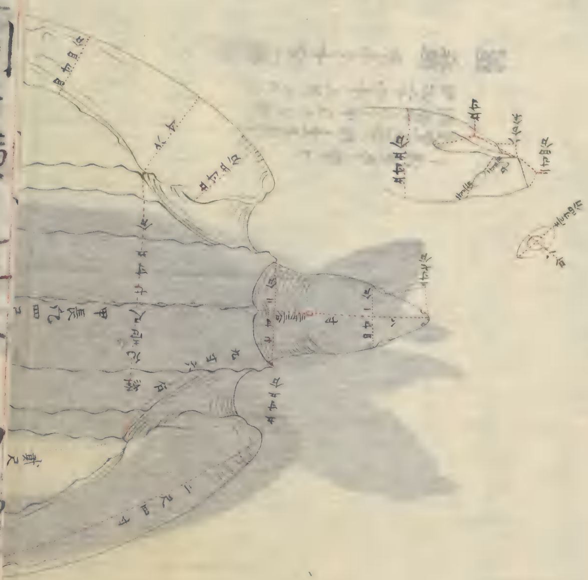
明治廿九年十一月初旬安房ノ海ニ於テ捕ル而シテ全量六十五貫匁ナリ
東京市日本橋區安針町尾カ方ヨリ購求シ下谷區
御徒町上野正之助ヲシテ剥製セシムルモノナリ
此モノハ熱帯地方ノ海ニ産スル巨鼇（オホガメ）ニシテ其大
ナルモノハ長サ一丈餘ニ達スト云フ此モノ黒潮ニ
従ヒ来リ……我西南ノ海ニ於テハ屢捕ル
コトアリ而シテ稀ニ安房海ニ於テ捕ルモ亦然ルナリ此甲殻
ハ蠵亀（ウミガメ）ト異リテ皮革ノ如シ故ニ英名ヲLeathery turtle
ト云フ皮革亀ノ義ナリ其肉ハ美味ナラスト雖氏

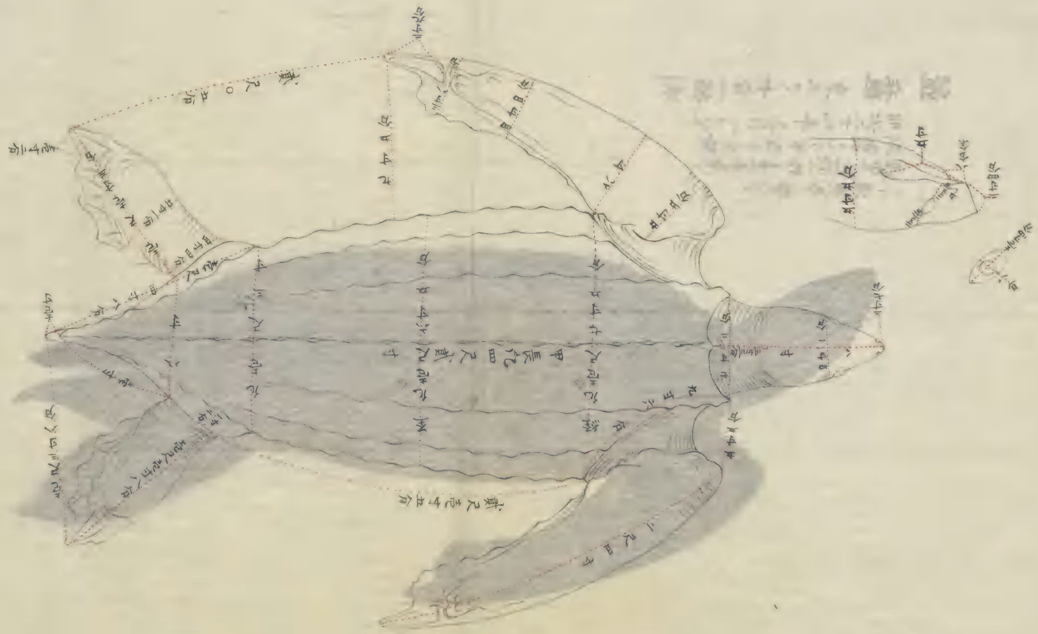
裁収
良質ノ油ヲ多ク有スルモノナリ

明治廿三年十一月廿四日　田中芳男記

附記此龜ハ伊勢外宮前之神苑会農業館ヘ不日廻送シテ陳列スベキモノナリ

ハシトシテ「イ」則チ横フル針金ノ両端ニ垂ル、鈎





東京大学総合図書館

紀伊 海亀捕方

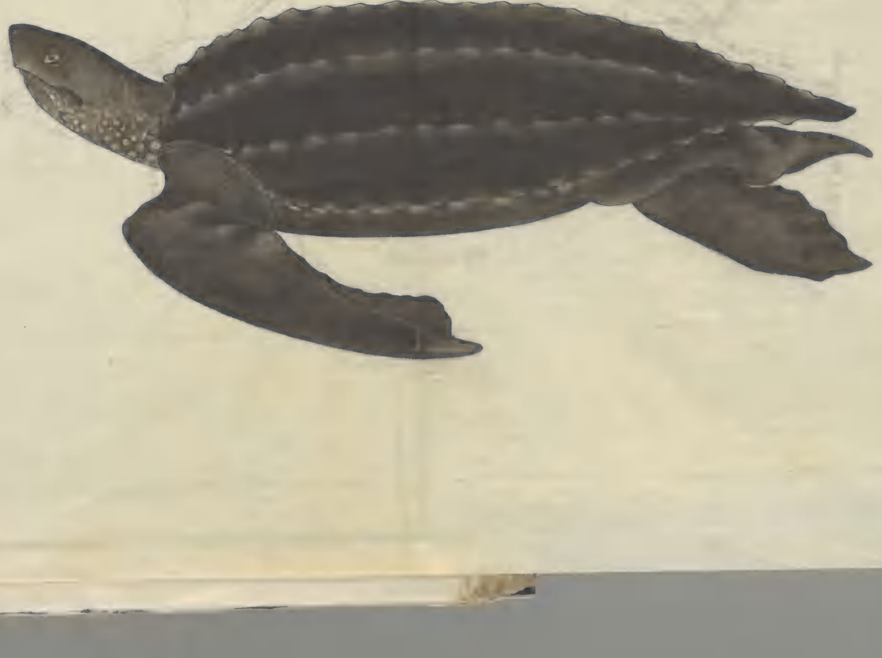
田辺町模範漁業組合得 大正九年七月九日 田辺

一 田辺町大字江川町漁民又ニ而海亀ヲ漁獲スルニ方法左之通

一 海亀ヲ捕獲スルニ二法アリ 一ハ釣針ヲ以テシ 一ハ簎(ヤス)ヲ以テス 其釣針ハ第一図ノ如クニシテ 縄綸ハ丸ツ五
十尋ノモノヲ用ユ而シテ第一図 同

鼈 森龜 実品三ノ十合一縮圖

明治二十九年十二月七日写
剥製ニシテ甲及手足皆
深黒色頭ハ稍々黒色ヲ帯リ
ニシテ淡黄色ヲ帯ブ



東京大学総合図書館

第 海亀捕方　田ノ浦村 桜田屋 □ 傳　大分 □ 田 □

一田邊町大字江川町漁民又ニ熟シ海亀ヲ漁獲スル二ヶ所沿岸之通

一海亀ヲ捕獲スル二法アリ一ハ釣針ヲ以テシ一ハ簎ヲ以テス其釣針ハ第一図ノ如クニシテ緡綸ハ丸ツ五十尋ノモノヲ用ユ而シテ第一圖回ノ処ヘ生ニ栗臭四五疋ヲ括リ付ケ之レヲ餌トナシ以テ常ニ彼レノ棲息スル場所（磯ニ付ルモノハ暗礁）ヲ認メ置キ七八尋ヨリ十四五尋ノ海中ニ緡綸ヲ垂下ス彼レ之ノ餌ヲ喰ハントシテ「イ」則チ横ワル針金ノ両端ニ垂ル、鈎

針ニ彼レノ両手ヲ觸ルヽヤ漁吏之ノ機ヲ窺ヒ
功ミニ之ヲ引懸ケ綏急其ノ宜シキヲ測リ殆ト
其ノ氷際ニ至ル片ハ第二圖ノ稓ヲ以テ射留ム[illegible]
ニフ彼レノ性質タル餌ヲ喰フノ際必ス両手ヲ
以テ扒チ掃ハントスト之レ則チ彼レカ鈎ニ懸ルノ
特性ニシテ漁吏又熟練ノ功ニアラサレハ能ク捕
フルコト得ストス然レトモ他ノ一法トハ則チ時々海
面ニ浮泳スルモノヲ認メ稓ヲ以テ衝キ捕フルモノ
ニシテ第二圖ノ偶当ハ漁吏之ヲ「ミリテ」ト称シ
彼レカ衝傷苦痛ノ餘リ海中ニアリテ過激

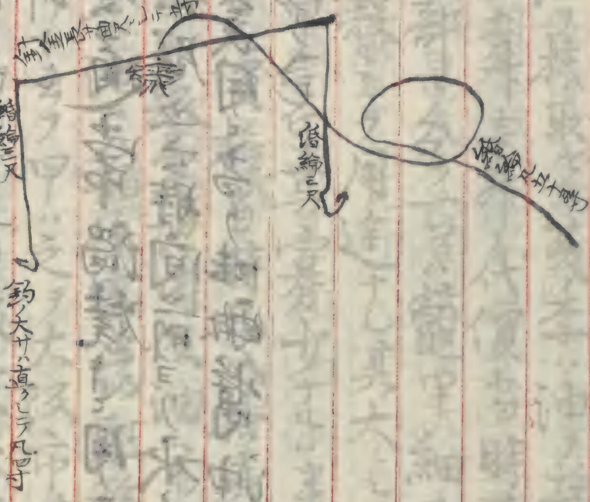
ノ運動ヲ逞フシ堅ク繩放縦ノ自由ヲ與ヘシメタメ
備ヘタルモノ
二鈎ヲ以テ漁獲スル陰暦九ノ四月ヲ良季トシ稓
ヲ以テ捕獲スル盛夏ノ季ヲ好シトス
之海亀ニ赤黒ノ二種アリ黒色ノモノヲ上品トシ赤
色ノモノヲ下品トス而シテ赤色ノモノ食用トナラス
唯油ヲ搾取スルノミ
西壱疋ノ総量ハ小ミ貫目ヨリ大ハ四拾貫目位ニ
至ル其肉量ハ総量ノ凡八分ノ五位ヒトス價格
夏季ハ壱貫目弐拾銭冬季ハ六拾銭内外トス

五 冬季ハ油ヲ採取セス夏季ハ油ヲ採取ス大壹頭
油ノ量凡五升ト壹升ノ代價當時弐四五銭ヲ右セリ
六 甲殻ヲ二部ニ分ツ一ツハ鼈甲細工ニ用ヒ一ツハ
所謂甲殻ニシテ用途ナシ其大ニシテ多量ナル
モノハ鼈甲壹斤其寡少ナルハ半斤位ヒヲ得
ル 但壹斤ノ價格當時凡八拾銭
七 肉及油 甲ノ販賣地肉及油ハ當地方ニ於テ
販賣ス其ノ油ハ稲作害虫驅除ニ利用シテ
功驗アリトシフ甲ハ之ヲ大阪市其他ニ輸送
シテ鼈甲商ナルモノニ販賣ス其ノ買得人

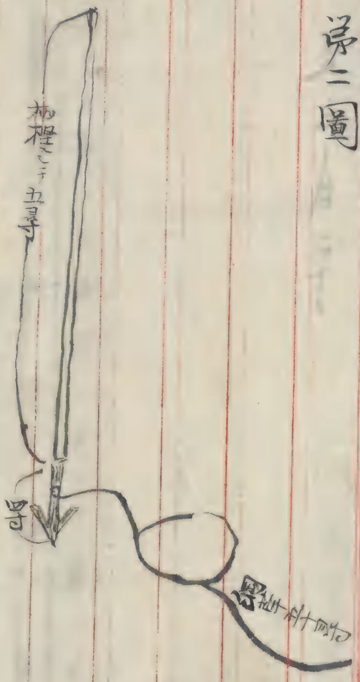
和歌山縣西牟婁郡役所

ノ住所氏名ハ之ヲ詳カニセス且販賣ニハ別
段期節ナシ
八 食用法ハ通常鍋焼キニ用ユ又ハ牛肉ノ如ク
サミ切リ供膳ス又ハ時間ニ前ヨリ水ニ浸シテ能ク
煮熟シ食用ニ當リ味噌醤油ヲ以テ適度
ニ煮揚クヘシ

第一圖



第二圖



エラブウナギ　海蛇

琉球諸島殊ニ永良部島ニ産スル爬虫ニシテ鰻鱺ノ類ニアラズ蛇ノ屬ナリ全身暗赭色ニシテ腹部ニ淡黒ノ横斑アリ頭短ク眼小ニ尾ノ末扁平ナリ然レド鰭様ヲ為サス鱗ハ扁クシテ鯉魚ノ鱗ニ似タリ常ニ潮水ニ栖ムト雖ド大氣ヲ吸テ生活ス

壬申秋薩州ヨリ来ル鬼界カ島ノ産ナリト云長サ三尺許周リ三寸餘潮水ニ養ヒシヿ廿日許ニシテ遂ニ死セリ

文部省

本郷區金助町七十二番地
田中芳男様
御直披

本郷區金助町七十二番地
田中芳男様
御直披
尊下

和歌山縣西牟婁郡役所

[illegible]

佐野謹呈

田中旦那様

四月廿日

封筒内資料　東京大学総合図書館

封筒内資料 東京大学総合図書館

謹啓 其後多謝ノ御ハ種々御厚情ヲ蒙リ時々
拝謁セン御届ケ御事ニ於テ汝義ノ御助力ヲ懸ケ今一ツ相頼ミ
候儀モ有之一向ニ其旨ヲ御頼奉ル様ニ且又書ヲ以テ御願申上ゲ度
其ニ掛ケカセラレ度近日候御教示ヲ以テ御聞キ御厚意ヲ以テ
御配慮ノ儀モ其ノ筆ヲ以テ雑誌[illegible]ヲ懸ケ附テ右
之匠儀ハ例[illegible]ノ要ニ[illegible]ナリニヤ但シ新[illegible]ナルヤ
標題ハ[illegible]見セシ覚悟シ[illegible]何卒[illegible]ヘ[illegible]
可致候[illegible]述ニ[illegible]聞テ[illegible]人
或ハ書籍ニヨリ[illegible]何[illegible]農商務
省ニ御取調ニテ[illegible]戎ハ官[illegible]アリ[illegible]
何卒[illegible]実ニ御教[illegible]述ル[illegible]
再度御相願[illegible]参照[illegible]御[illegible]報
告[illegible]奉祈[illegible]
[illegible]御注文[illegible]及洋[illegible]
[illegible]人[illegible]上[illegible]
進テ[illegible]
種々[illegible]御望ミ[illegible]
或ハ[illegible]
一国[illegible]
[illegible]何卒
[illegible]
[illegible]七十九
小[illegible]
然[illegible]
御[illegible]同人ハ[illegible]
十分[illegible]
[illegible]洋[illegible]
之達[illegible]
[illegible]
(右[illegible])[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
同業ニ[illegible]
去リトテ[illegible]
足[illegible]
御[illegible]
[illegible]一個[illegible]二個[illegible]

[illegible]

已ニ[illegible]久宗大ケニ[illegible]同ナル[illegible]人

式ハ實ニ[illegible]何[illegible]右[illegible]

前ニ御[illegible]所アリ[illegible]

何[illegible]故ニ[illegible]

甲胄御附属[illegible]折柄[illegible]所[illegible]

[illegible]

[illegible]人[illegible]

[illegible]

[illegible]ノ[illegible]日ニ（大阪[illegible]）

[illegible]

一[illegible]ブツ[illegible]ニテ

[illegible]

[illegible]七十九歳[illegible]

[illegible]

[illegible]

御[illegible]ナリト同人ハ[illegible]

十分[illegible]

[illegible]

[illegible]ナラス[illegible]

[illegible]細工[illegible]ナラス

[illegible]

（[illegible]）[illegible]二十[illegible]ナル[illegible]ニテ

[illegible]（[illegible]細[illegible]種々理由アリ）

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]ナリ

同業ニ[illegible]ナレハ[illegible]

去リトテ[illegible]

[illegible]ノ[illegible]モ御[illegible]

御[illegible]

[illegible]一個ニテモ二個ニテモ[illegible]

右[illegible]

[illegible]御[illegible]

[illegible]

（[illegible]）[illegible]二円[illegible]金 三円

○[illegible]

[illegible]

[illegible]不[illegible]ナリ[illegible]

○[illegible]旧[illegible]

[illegible]

○[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]ノモノナリ

[illegible]

又[illegible]一[illegible]

[illegible]モノナリト

[illegible]

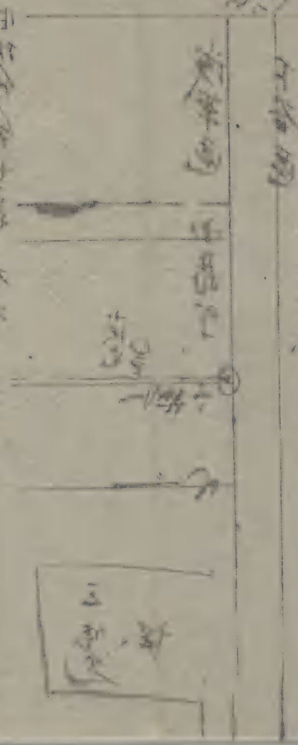
[illegible]

三月十九夜

田中旦那様

河野[illegible]呈

封筒内資料　東京大学総合図書館



[illegible]

封筒内資料 東京大学総合図書館

国事旦暮録

三月十三日

林勲進

謹呈 別出條款ヲ先ニシ其主リ其久ニ取捨セントス[illegible]ハ
十一ヶ月ナリ之ヲ詳細ニ述ル條令ハ頼山陽ノ外史ヲ著述スルニ
難シ如何ニ苦ムモ今夜中ニ記スルヲ致ス故ニ失敬
奉送ス[illegible]兵械書題目ヲ記シ捧置キ詳細ハ何モ
月末ニ[illegible]日[illegible]中[illegible]有道ニ上申ノ方途ア
ナルベシト信ス[illegible]一族ノ方[illegible]子ノ[illegible]ハ[illegible]ヲ[illegible]ノ諸
方ヲ述ル能ハサルヤ始リ此ロ以ニテ清水君ニ[illegible]前ニ[illegible]
御安否ヲ伺ントシ行違ヒ御馬車ヲ拝セサルヿ如何ニモ
遺憾ナリト思フ

御賢察在ランコトヲ請フ

君か為めあつまきの
志めす枕ツかし
暮て軽重
末の日[illegible]

和甲御質問ニ對スル件 概略

右和甲ノ実ハ二條ナリ前年お[illegible]信州之[illegible]ノ[illegible]御賢察
ニテレツ単吾者日本橋通横山町二丁目江川金[illegible]（[illegible]
上[illegible]）ヲ指トシ同[illegible]ヲ以同業者[illegible]ノ近傍ニ[illegible]
足リ[illegible]者広ク保セシ[illegible]ナル大鋪アリ美研[illegible]清正堂
傳ラニ紅[illegible]県アリ同[illegible]多ク何レモ[illegible]甲[illegible]
繁大ナル家ニシテ兵和甲ノ[illegible]トスル者アルヲ[illegible]
但シ有[illegible]郡[illegible]貿[illegible]ノ[illegible]
而[illegible]実ハ何故ナルヤ[illegible]ノ[illegible]スル[illegible]ニ[illegible]兵
[illegible]職業[illegible]ニシテ[illegible]十七[illegible]ニ[illegible]和
ナル者アリ之レハ本甲横[illegible]ヲ以テ[illegible]ト[illegible]シテ[illegible]
[illegible]ノ細工モ可ナリ仕ナラント信レト[illegible]ノ[illegible]
（[illegible]）小[illegible]ナルモノアリ[illegible]者[illegible]
二百年来和甲ヲ[illegible]外行キノ[illegible]子四[illegible]
ナル[illegible]ハ[illegible]ドル入[illegible]
製造ヲ[illegible]ニ[illegible]ナリ[illegible]モ[illegible]ノ[illegible]ヲ[illegible]
新[illegible]居ト稱スル者[illegible]黒[illegible]ニ山田[illegible]ナル者[illegible]
同業者ヲ[illegible]リ[illegible]トナシ[illegible]大ナル[illegible]ノ[illegible]ト
[illegible]ノ如キ[illegible]業[illegible]ヨリ世ノ[illegible]ニ[illegible]スル
[illegible]ナルヤ漸々衰ヘツ[illegible]ノ[illegible]
[illegible]ニ再興セシモノナルヤ何レモ[illegible]ハ[illegible]スル者ヨリ
[illegible]ニ[illegible]

[illegible]テ右[illegible]大ナル利[illegible]ヲ[illegible]スルニ我国[illegible]
小[illegible]ノ産出ハ如何ニモ不足ヲ生シ[illegible]
[illegible]ナシニ在ハナク[illegible]居ニ[illegible]ノ[illegible]ハ[illegible]
儀ノ[illegible]シ詳細之ヲ[illegible]ニ右和甲ノ[illegible]甲ト[illegible]
[illegible]人ノ[illegible]

慕ハテ杜ハ

慕ハテ雅至ヘ　東の日館

和甲御賃ノ間ニ對スル件　概略

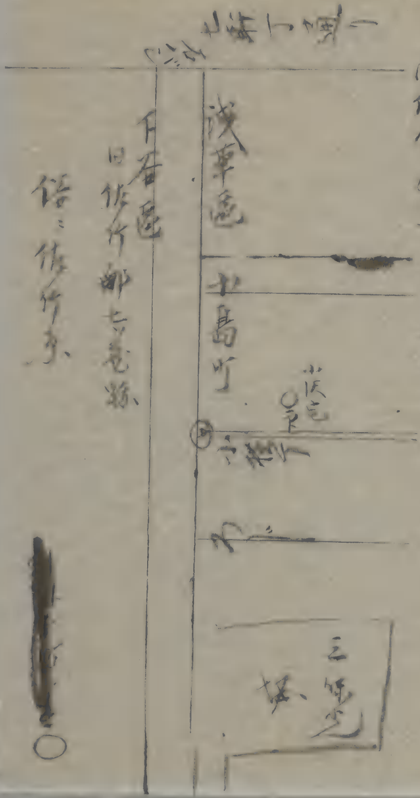
右和甲ノ義ハ讃テ前年小沢増蔵ノ命ノ謀御覚並ヒ
ニテレッ華ガ当右日本橋通横町二丁目江川金介（氏（鑑定
ト後覚）ヲ指トレ同業ヲ以テ同業者ニ比ノ通リ候ニシテ
上ヘ入有店ニ伺セセ並ヒ大舗アリ弟子新ハ下請正堂ニ
億ラニ紅至ルアリ同家ヨリシテ何レモ鑑甲ト庸工ハ
豊天ナル家ニシ候其和甲ノニ付入トスル者ナラ京ヨリ
但ニ有ミシ甲和今回賃ノ間ノ主意

所要賃ハ何故ナルヤ再生ノ案和スル跡ハナルナニシ得其
若シ職業ニ有富ニシ得ハ横竹ヨリ自十七歳ニ及ヒ候吉
ナル者アリ之レハ本甲様製ヲ以テニ宇門ト称シ候其和
甲業ノ細工モ何ナリ仕ナラント信シ本海業少年ノ一
（当此不分明）小沢重次郎ナルモノアリ此者ヲ察シ
二年来和甲ヲ以テ此外行キノ業子四口営業ヲ吸シ立
ナル故或ハ若宗入○ドル入代年○ニテ伺ト様ク（新工場
製造ヲ営ミニ被ハ本ナリ尤モ此年ノ製品ヲ売集メ
所得店ト稱スル者日本橋黒江町様子ニ山田某ナル者ニ叉ニ
同業者ヲ募リ本職トナシ實ニ其大ナル営業ト
例リニ於テ之ヲ勿論三四年前ヨリ世ノ好事家ニ賞スル
故ナルヤ漸々盛ハッ器子ナノ賞ノ並ニ此ノ製作ヲ
願ハニ再盛セシモノナルヤ何レモ其者ハ薪修スル者ヨリ
伊ヘク御ノ済

除テ右莫大ナル利益少ナカラ営業スルニ和甲対御徳意或ハ
小石川某某等ノ産出ハ如何ニモ不足ヲ生シ随テ暫候モ
盛アラシニ在ハナク請居ニ成ヒ様ハシ價ノ振ハサルハ不思
儀ノ難ヲ生シ詳細之ヲ知ルニ右和甲ノ賃ハ本甲ト異ニ
如何ニモ種々屈曲自由ナラス工人ノ製造ハ困難ヲ
極メッテ遺憾ノ至リニ存シ故ニ営業ハ諸工本甲
或ハ牛角ヲ卯ミニ精製シ之レガ代用トス本アルニ之レヲ
深メバラフ（則本甲ニ擬ス）之レヲ深工ト号ク其ハバラフヲ
画中以テ出キハラフト云フ（過酸化マンガン加里等ヲ以テ
画クモノナリ

右製造ノ関節ニシテ御観随意ナリ且便宜ナリ
故ニ和甲ノ世ニ貴重セラレサルモノナル者然シモ
来タ製造利益ノ當ヲ得カルモノ模範困テ世人モ
模ヲモ同盛ニシテ正益ハ販売ナラシムル工夫ニ従事
スル了年ニシテ未ダ果サス之ニ今日ニ至リテハ
殆ト廃セ無意多ナルヲ自照ニ自ラ敷シ
所新ノ好様ハ此ノ極度トハ存ノ申ス

○平八郎製甲師小沢氏宅ニシテ人柄ハ温厚言語穏
飾アリ小ニシク謙遜ナレ叱要ハニアラズ思テ和甲ノ披ノ
者ハ本甲師ニハ稀ニシテ斯ハ製甲師ニシテ
○浅草七軒町ト称ヤトヤ鎌倉ナヤノ向様ナル三世後
侍ヨリ北ノ方ニツ目ヲドホシ横丁ニテ左側三戸斯目
旧佐竹邸七ツ竈ト相對スル様子ナリ



一

[illegible]

一

[illegible]

一

[illegible]

上

海舟 [illegible]

封筒内資料 東京大学総合図書館

上

[illegible]

一 格段陳ニ而ハ取ヲ得ルニ當日御用有之趣ニ付少々得失
當日之習字諸所竟迄新役ニ御座候ハ其所竟所迄而付
申上候而差出しニ而ハ罷試験筆墨等ニ而も相済候
納メ申上候得共相済候ニ付此段奉願上候
右故ニ今日御願ハ御当之別ニ思召ノ御製ニ至リ別ニ而御座候
御座ハ右様御覧被遊候右様ハ何分願ひニ而少々御座候
不通用之段ニ何分御都合之儀ニ而度返ニ相成候ハ、
別ニ何分御座候而宜敷御取計被下候様ニ而ハ
被下候様ニ二ツ品ニ而御座候ハ、左様其内御用之見合ニ
献上仕度御覧之上御取計被下候様御願申上候
右段申上候以上

一 先日御菓子之節ハ何分之御召之儀ニ付難有御礼奉申上候
折角之御菓子等ニ而も何分御座候御答申上候ハ、全ク御菓子ニ而御座候
且又右之御品ヲ差上候而ハ何分ニ御座候ハ、御覧之上御座候

一 御無沙汰之儀ハ詳細申上候得共但シ一日も致度心ハ先々御座候
近日之御様子承り御菓子之儀御尋申上候ハ、御座候
候中ニ相成候処御取計被下候様ニ而ハ何分宜敷御座候
以御菓子共ニ御座候ニ付此段申上候ハ、何分御座候
相成候ハ、右之段御座候ハ、御座候而ハ何分奉存候
之御掛り御座候而ハ何分御座候ニ而ハ何分御座候
一通り御座候御承知之上御座候而ハ何分御座候
事ト御座候何卒御覧之上御座候奉願上候以上

蝶製大 十二
小 七
キク 七
撫 一
梅 一
キク蝶 一
ソテツ 一
合 三十本

右御沙汰之場合来
大正年二月六日

畏道長花山天皇位
申大極殿御侍
芳田江伊

封筒内資料　東京大学総合図書館

龍蛇神

島根縣出雲國杵築東村北島脩孝ヨリ東久世通禧君ヘ
向ケ差出ス所ノ龍蛇神ナルモノ島桐ノ小函ヘ入レ之ヲ老臣ニ
於テ見ルコヲ得タレハ同君ニ乞ヒ両三日間借リ來ル所ナリ
今之カ形状ヲ存レハ 一尺八九寸ノ蛇ヲ蟠状ニ巻キ尾ヲ立
テ首ト並ヘ擡起セリ 体ハ扁ニシテ廣サ凡五分許 頭ハ
長サ一寸許アリ 口闊ク小キ逆歯二列ニアリ 全身ノ上部黒ク
下部黄茶色 尾ノ辺二寸許ハ斑ト云 此尾ハ扁ニシテ尖ル
右ノ乾物ヲ見ル所ナリ
該地ニテハ冬月海濱ヘハ時々漂ヒ打揚ケラル 之ヲ捕ヘ大社ヘ納メシ

〇又聞ク昔ハ
尚長大ナルモノ
アリト又聞ク
播州網干君
所有スルモノ
其ノ頭大ナリ
ト云フ

同所ニテノ如キ形ナル蛇ニテ 竜宮ノ神トシテ出ス数多ク
出ザル也只得タルモノトスト云フ 是近頃ノ所ハ毎年大海ヨリノ白蛇カ海
ヨリ数猛リ来リ 神主ノ持ツ三宝ノ上ニ来リ 海水ノ上ニ
大国ニ入ト聞キシ事大ニ然ルト云フ 皆リテ
案ニ此蛇ハ海蛇ニテ 尋常ノ海蛇即チ永良部鰻ト同種
属ナリ 唯ホ之ク 是ハ生ヲ紀伊ヨリ屋久島ノ蛇
ト録シテアリシ又琉屋博物館ノ標本ノ実物ト比較シテ乾物ト
ナリシモノ也 小笠原島ニ生息ス海蛇ト形状ハ同様ニ
博物館ニ備ヘ置ク 同物ナリ

明治十九年五月十四日

田中芳記

其後ハ東京ノ同夜ニ在テ之ヲ拝ス
併テ写真ヨリ写セシモノ 刊刷ノ図ニ其形ト特ニ似タル
体ハ長ク扁平ナリ 実物ノ如ク 拡大シテ
上ニ述ベシノ如ク左ノ如シ 図ハ三宝ノ上ニ横ヘ在ル

大社龍蛇

毎年十月を神在月とよひても 天日隅宮に
八百万神集り玉ふなるへしやそれ竜神の
の使として 出雲国五十田狭の浜
より上りもいろくの光をてらし 水波の
哀をたすけるなり

hydrophylla bicolor

又他ノ種建固ノ上ニ於テ之ヲ 目ハ黒ニシテ尻ノ下ノ方

奥ノ大沢ニテ本年十一月十五日采取シ備ヘ置キ 面ノ内ニ在リ

此田セリ

古田精知神人隠レテ連レテ出ル時ハ伴ヒテ

自然ト上リテ来ル時 神人捕ヘテ之ヲ祀ル

傳ヘ上ニ

為他ノ一図アリ是ヲ写シ取リ先ニ示シ後ノ尾ニ

標ニ之ヲ

十九年五月十二日

田中芳男

ヤマカジカ

明治十九年六月十六日 塩原ニ於テ 田中芳男記

是即チ サンショウウオ ノ一種ト見テ 而 サンショウウオ トモ云フ 其色ニヨリテ

或ハ ブチガエル トモ云フ

下野国塩谷郡塩原村ノ内字中井沢ノ渓流ニ多ク居ル 浅所ノ石ヲ

起ケレバ出テ至テ静穏ナルモ捕ヘントスレバ活溌ニ躍リ逃レ去ル 静ニ

之ヲ捕ヘントキハ更ニ畏ルル事ナク 殊ニ手掌ニ上リ或ハ網ニ入リトキハ

更ニ驚キナキモノナリ

其長サ一寸二三分ノモノ最モ多シ 原色ニ小黒斑点アリテ帯トスルモ又背上ノ中央

茶色ニテ縦ニ斑アリ 黄茶色ノ者モアリ 形ノ大ナルノ長サ二寸アリ 最大ナルハ

三寸半位ニ至ル 色ハ暗茶色 暗黒斑点ノ者多ケレバ 赤褐色ノ原色白微

東京大学総合図書館

褐色ヲ帯ヒ故ニ其色ヲ論スル者ハ甚一様ナラストナスヘシ 唇ヲ背ニ比スレハ両
脇ノ色濃ク腹ハ淡色ナリトスヘシ 又其一寸二分位ノモノ今年ノ出ニシテ
三寸許ナルハ二年生ノモノナリト云ヘリ
頭形扁闊身圓ニシテ稍方形尾ニ至テ次第ニ狭偏ナリ 前肢四趾後肢
五趾ニ各黒鋭爪アリ 鰓下ニ呼吸孔アリ 肩ノ上ニ総ノ如キ物アリ 水ヲ離ルヽトキハ且
ヘ難シ 之ヲ水中ニ畜ヒ置キシニ手ヲ以テ攫セハ虚ノ如クナリ 二ツ相対シ但寄
個ニテ投ノ如キモノ数各十個ヲ見ルニ水中ニ在リ 口ヲ以テ水ヲ吸フ 其持タル
状ハ之ヲ口ニ水ヲ著ケ陸ニ放テハ水面ニ浮ヒ空気ヲ吸フ事アリ 而シテ大
ナルハ強キモノ也 小ナルハ弱シ之ヲ見シ 此爬出ノ虎足ハ人ノ知ル所ナレト 唯稍
ニ捕ヘ食スルニ近ヨリ 箱根ノ如キ数ヶ処ニ棲ム事ナシ

右得此紙於甲小物也

東京大学総合図書館

東京大学総合図書館